

学期 / Semester	2025年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	水 / Wed 5
開講期間 / Course duration	2025/04/01 ~ 2025/09/28		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General /Transfer/Overseas)	1.0/1.0/1.0
時間割コード / Time schedule code	20250547000101	科目番号 / Course code	05470001
科目ナンバリングコード / Numbering code			
授業科目名 / Course title	●ドイツの言語と文化A(言語・異文化理解科目) 1単位科目 / Bridging Language and Culture A (German)		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	竹田 桜 / Sakura Takeda		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	竹田 桜 / Sakura Takeda		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	竹田 桜 / Sakura Takeda		
科目分類 / Course Category	言語・異文化理解科目, 人文・社会科学科目		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	演習 / Seminar
教室 / Class room	教養教育A棟42 / RoomA-42		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	全学生(ただし、ドイツ語を初めて学ぶ人を対象とします)		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	kirsch2011dasenka▲gmail.com(メールをする際は、▲を@に置き換えてください)		
担当教員研究室/Office	非常勤講師控室		
担当教員TEL/Tel	095-819-2078(教養教育事務室)		
担当教員オフィスアワー/Office hours	授業の前後		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	ドイツ語の文法知識および言語を運用する能力の基礎を身に付ける。併せてドイツ語圏の文化について学ぶ。		
授業到達目標/Course goals	・初級文法事項に基づき、簡単な読解、作文、聞き取り、会話ができるようになる。 ・ドイツ語圏の歴史・文化について理解を深めるとともに、自国ならびに他の文化圏の歴史や文化を俯瞰的な視点でとらえられるようになる。 ・テーマに応じた資料を収集し、読み解き、他者に伝える能力を涵養する。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで) / Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	■汎用的能力 / Generic Competence □倫理観 / Ethics ■多様性の理解 / Understanding Diversity ■主体性 / Autonomy □協働性 / Cooperativeness □考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas □国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	■A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ■B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives ■C. 技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills □D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems □E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above □F. 教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	授業への参加状況(25%) 予習・復習への取り組み(25%...習熟度確認テスト15%+プレゼンテーション10%) 定期試験(50%)		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法) / Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	(事前学習) 指示された範囲について教科書の内容を概観し、疑問点を明らかにしておくこと。音読の練習をすること。プレゼンテーションの準備(60分)。 (事後学習) 状況に応じて宿題チェックや習熟度確認テストを行います。しっかり復習をしてください(60分)。 実施方法については講義中に説明します。		
キーワード/Keywords			
教科書・教材・参考書/Materials	谷澤 優子(他)『クラッセ! ノイ 初級ドイツ語総合読本』白水社(ISBN: 9784560064214) 独和辞典		
受講要件(履修条件) / Prerequisites	・「ドイツの言語と文化B(言語・異文化理解科目)」と通年で取ることをお勧めします。 ・やむを得ない事情がない限り、毎回出席すること。 ・独和辞典を必ず持参してください。辞書を持ってきているという前提で授業を進めます。		

アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006 （FAX）095-819-2948 （E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考/Remarks	
学生へのメッセージ/Message for students	・正しい発音を習得するため、音読、ペアワーク、グループワークを頻繁に行います。 ・授業への取り組みも大いに成績へ反映されます。積極的に参加してください。
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	授業オリエンテーション Lektion 0 発音 Lektion 1 あいさつ（１） 規則動詞の現在人称変化（単数）、duとSieの使い分け、語順（対面）
第2回	Lektion 1 あいさつ（２） 規則動詞の現在人称変化（単数）、duとSieの使い分け、語順（対面）
第3回	Lektion 2 紹介（１） 規則動詞の現在人称変化（複数）、動詞sein、100までの数（対面）
第4回	Lektion 2 紹介（２） 規則動詞の現在人称変化（複数）、動詞sein、100までの数 プレゼンテーション へのガイダンスおよび準備（対面）
第5回	Lektion 3 持ち物（１） 名詞の性、定冠詞・不定冠詞・否定冠詞の１格、複数形 プレゼンテーション（対面）
第6回	Lektion 3 持ち物（２） 名詞の性、定冠詞・不定冠詞・否定冠詞の１格、複数形（対面）
第7回	Lektion 4 食事（１） 動詞haben、助動詞möchte、定冠詞・不定冠詞・否定冠詞の４格（対面）
第8回	Lektion 4 食事（２） 動詞haben、助動詞möchte、定冠詞・不定冠詞・否定冠詞の４格（対面）
第9回	Lektion 5 家族（１） 所有冠詞・定冠詞類・人称代名詞の１格・４格 プレゼンテーション へのガイダンスおよび準備（対面）
第10回	Lektion 5 家族（２） 所有冠詞・定冠詞類・人称代名詞の１格・４格 プレゼンテーション（対面）
第11回	Lektion 6 好きなこと（１） 不規則変化動詞、命令形（対面）
第12回	Lektion 6 好きなこと（２） 不規則変化動詞、命令形（対面）

第13回	Lektion 6 好きなこと（３） 不規則変化動詞、命令形 （対面）
第14回	Lektion 7 ファッション（１） ３格、３格支配の前置詞 プレゼンテーション へのガイダンスおよび準備 （対面）
第15回	Lektion 7 ファッション（２） ３格、３格支配の前置詞 プレゼンテーション （対面）
第16回	定期試験（対面）

学期 / Semester	2025年度 / Academic Year 後期 / Second Semester	曜日・校時 / Day・Period	水 / Wed 5
開講期間 / Course duration	2025/09/29 ~ 2026/03/31		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General /Transfer/Overseas)	1.0/1.0/1.0
時間割コード / Time schedule code	20250547000301	科目番号 / Course code	05470003
科目ナンバリングコード / Numbering code			
授業科目名 / Course title	●ドイツの言語と文化B(言語・異文化理解科目) 1単位科目 / Bridging Language and Culture B (German)		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	竹田 桜 / Sakura Takeda		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	竹田 桜 / Sakura Takeda		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	竹田 桜 / Sakura Takeda		
科目分類 / Course Category	言語・異文化理解科目, 人文・社会科学科目		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	演習 / Seminar
教室 / Class room	教養教育A棟41 / RoomA-41		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	全学生		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	kirsch2011dasenka▲gmail.com (メールをする際は、▲を@に置き換えてください)		
担当教員研究室/Office	非常勤講師控室		
担当教員TEL/Tel	095-819-2078 (教養教育事務室)		
担当教員オフィスアワー/Office hours	授業の前後		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	ドイツ語の文法知識および言語を運用する能力の基礎を身に付ける。併せてドイツ語圏の文化について学ぶ。		
授業到達目標/Course goals	・初級文法事項に基づき、簡単な読解、作文、聞き取り、会話ができるようになる。 ・ドイツ語圏の歴史・文化について理解を深めるとともに、自国ならびに他の文化圏の歴史や文化を俯瞰的な視点でとらえられるようになる。 ・テーマに応じた資料を収集し、読み解き、他者に伝える能力を涵養する。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで)/Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	■汎用的能力 / Generic Competence □倫理観 / Ethics ■多様性の理解 / Understanding Diversity ■主体性 / Autonomy □協働性 / Cooperativeness □考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas □国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	■A.授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ■B.多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives ■C.技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills □D.問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems □E.上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above □F.教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	授業への参加状況(25%) 予習・復習への取り組み(25%...習熟度確認テスト15%+プレゼンテーション10%) 定期試験(50%)		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法)/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	(事前学習) 指示された範囲について教科書の内容を概観し、疑問点を明らかにしておくこと。音読の練習をすること。プレゼンテーションの準備(60分)。 (事後学習) 状況に応じて宿題チェックや習熟度確認テストを行います。しっかり復習をしてください(60分)。 実施方法については講義中に説明します。		
キーワード/Keywords			
教科書・教材・参考書/Materials	谷澤 優子(他)『クラッセ! ノイ 初級ドイツ語総合読本』白水社(ISBN: 9784560064214) 独和辞典		

受講要件（履修条件）/Prerequisites	・本授業は、前期開講科目【ドイツの言語と文化A】を受講済みであることを前提に進められます。そのため、同科目を受講済みの学生が望ましいです。前期開講科目【ドイツの言語と文化A】を未受講の場合、授業内容の理解が難しくなる可能性があります。このことを念頭に受講の判断をしてください。 ・やむを得ない事情がない限り、毎回出席すること（出席が授業を行った時数の3分の2に達しない場合、期末試験の受験資格が認められません）。 ・独和辞典を必ず持参してください。辞書を持ってきているという前提で授業を進めます。
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006 （FAX）095-819-2948 （E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考/Remarks	
学生へのメッセージ/Message for students	・正しい発音を習得するため、音読、ペアワーク、グループワークを頻繁に行います。 ・プレゼンテーションはグループでの活動を予定しています。相互の協力関係を築くことが求められます。 ・授業への取り組みも大いに成績へ反映されます。積極的に参加してください。
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	授業オリエンテーション 既習文法の復習・補足 Lektion 4 食事（1） 動詞haben、助動詞möchte、定冠詞・不定冠詞・否定冠詞の4格 （対面）
第2回	Lektion 4 食事（2） 動詞haben、助動詞möchte、定冠詞・不定冠詞・否定冠詞の4格 （対面）
第3回	Lektion 5 家族（1） 所有冠詞・定冠詞類・人称代名詞の1格・4格 プレゼンテーションへのガイダンスおよび準備 （対面）
第4回	Lektion 5 家族（2） 所有冠詞・定冠詞類・人称代名詞の1格・4格 プレゼンテーションへのガイダンスおよび準備 （対面）
第5回	プレゼンテーション（ドイツ語圏の音楽） （対面）
第6回	Lektion 6 好きなこと（1） 不規則変化動詞、命令形 （対面）
第7回	Lektion 6 好きなこと（2） 不規則変化動詞、命令形 （対面）
第8回	Lektion 7 ファッション（1） 3格、3格支配の前置詞 プレゼンテーションへのガイダンスおよび準備 （対面）
第9回	Lektion 7 ファッション（2） 3格、3格支配の前置詞 プレゼンテーションへのガイダンスおよび準備 （対面）
第10回	プレゼンテーション（ドイツ語圏の企業） （対面）

第11回	Lektion 8 街にて(1) 4格支配の前置詞、3・4格支配の前置詞、複合動詞、時刻の表現 (対面)
第12回	Lektion 8 街にて(2) 4格支配の前置詞、3・4格支配の前置詞、複合動詞、時刻の表現 (対面)
第13回	Lektion 9 休暇(1) 話法の助動詞、未来形、zu不定詞 (対面)
第14回	第二次世界大戦後ドイツの諸問題について 講義・映像作品鑑賞・ディスカッション・レポート (対面)
第15回	Lektion 9 休暇(2) 話法の助動詞、未来形、zu不定詞 (対面)
第16回	定期試験(対面)

学期 / Semester	2025年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	水 / Wed 3
開講期間 / Course duration	2025/04/01 ~ 2025/09/28		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General / Transfer/Overseas)	1.0/1.0/1.0
時間割コード / Time schedule code	20250547000501	科目番号 / Course code	05470005
科目ナンバリングコード / Numbering code			
授業科目名 / Course title	● フランスの言語と文化A(言語・異文化理解科目) 1単位科目 / Bridging Language and Culture A (French)		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	大橋 絵理 / Oohashi Eri		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	大橋 絵理 / Oohashi Eri		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	大橋 絵理 / Oohashi Eri		
科目分類 / Course Category	言語・異文化理解科目, 人文・社会科学科目		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	演習 / Seminar
教室 / Class room	教養教育C棟26 / RoomC-26		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	全学生		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	eohashi▲nagasaki-u.ac.jp (メールをする際は、▲を@に置き換えてください。)		
担当教員研究室/Office	環境科学部棟実験棟1階		
担当教員TEL/Tel	095-819-2086		
担当教員オフィスアワー/Office hours	火曜日12:00~12:50 水曜日12:00~12:50 木曜日12:30~12:50		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	3分の1が「フランスの文化」について、3分の2が「フランス語会話」の授業になります。「フランス語会話」の教科書は「正宗伝：RPGで学ぶフランス語」を使います。この教科書は、グループワークが中心で、RPGをコンセプトに、楽しみながら、どうすればフランス語でコミュニケーションが上達するようになるかを考えて作られています。舞台は近未来です。主人公のMasamuneは、SarahやVladimirやAmadouという3人の勇者たちと様々な困難を乗り越えます。ゲームを解きながらフランスで日常よく使われる、カフェでの注文の仕方、道の聞き方、買い物の仕方などの会話を学びます。 「フランスの文化」については、現代のフランスの移民問題や同性婚、またフランス革命や魔女狩り、動物裁判など日本の社会や歴史とは異なった知識を得ることにより、国際的な視野を養います。 さらにフランスの世界遺産、ブティック、美術館、カフェ、レストラン、音楽など、現代の流行の最先端をいくフランスの文化を知り、その映像も沢山紹介します。フランスのニュースや映画を通してフランスと日本との相違を考え、客観的な物の見方を学びます。 フランスに初めて触れる学生を対象にし、フランスへ、旅行、語学研修、留学に行った時、日常生活に必要な基礎的な会話を、無理なく学び、フランスの文化や社会への理解を深めることをねらいとします。 また、「フランスの言語と文化 A」と「フランスの言語と文化 B」の単位を取得すると、1年生後期の3月に3週間のフランス、国立アンジェ大学で「フランス語短期語学留学」に行く権利を得ることができます。		
授業到達目標/Course goals	1) フランス語の発音とつづり字の読み方を身につけ、単語、文、短い文章が音読できるようになる。 2) フランス語の挨拶や自己紹介、旅行や買い物で役に立つ表現を覚え、使えるようになる。 3) 基本動詞 etre 「...です」、avoir 「...を持っています」の活用を覚え、自分について語ったり相手に質問したりできるようになる。 4) 現代のフランスの社会を知ることによって国際的な視野を広げ、将来の展望に役立てることができるようになる。 5) フランスの文化や歴史を学び、日本との相違を考え、異文化への理解を深めることができるようになる。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで)/Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	☐ 汎用的能力 / Generic Competence ☐ 倫理観 / Ethics ☒ 多様性の理解 / Understanding Diversity ☒ 主体性 / Autonomy ☐ 協働性 / Cooperativeness ☐ 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas ☒ 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		

学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	■A.授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ■B.多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives ■C.技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills ■D.問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems □E.上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above □F.教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers	
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	レポート40%、小テスト30%、課題15%、授業態度15%を総合的に判断する。	
各回の授業内容・授業方法（学習指導方法）/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照	
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	事前学習は、授業の最後に次回の内容について説明しますので、教科書を見て内容を理解するようにして下さい。半期で7時間です。 事後学習は、テキストやノートを見ながら内容を確認し、課題やレポートの準備をして下さい。半期で8時間です。	
キーワード/Keywords	フランス語	
教科書・教材・参考書/Materials	「正宗伝：RPGで学ぶフランス語」（三修社）	
受講要件（履修条件）/Prerequisites		
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006（FAX）095-819-2948 （E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp	
備考/Remarks	旅行や日常会話のフランス語を楽しく学ぶ。フランス語学習を通じて新しい文化や生活習慣、考え方にふれる。フランス人の目を通して日本の文化を見直す。	
学生へのメッセージ/Message for students	「大学の授業の中で一番フランス語の授業が好きでした！授業を受ける前は、フランス語は難しいと聞いていたし、実際勉強は必要だけど、すごく楽しかったです！フランスがとても好きになりました！（先輩のメッセージ）」ここまでは思えない人もいるでしょうが、楽しく学べて絶対会話ができるようになる授業を心がけています。また、3月にアンジェ大学への3週間のフランス語の短期留学にも希望者は参加できます。語学だけではなく、世界遺産のモンサンミッシェルやパリ旅行を経験でき参加者は全員行ってよかったと言ってます。	
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N	
実務家教員名／実務経験内容／実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course		
授業計画詳細 / Course Schedule		
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents	授業手法 /
第1回	（対面） Civilisation フランスを知る 1）パリってとどこ？ 2）フランスの地方を知ろう 3）フランスの海外県	A B D
第2回	（対面）「フランス語ってどんな言葉？」 1）アルファベを発音しよう 2）単語を発音してみよう 3）フランス語で挨拶してみよう	A B C
第3回	（対面）「君は誰だ？」（1） 1）「私は～です」と言ってみよう 2）リエゾンって何？ 3）数を数えよう	A B C
第4回	（対面）「君は誰だ？」（2） 1）国名と「～人」を知ろう 2）自己紹介をする 3）ペアレッスンをしよう	A B C

第5回	(対面) Civilisation フランスの歴史を知る 1) フランス革命 2) 魔女裁判 3) 動物裁判	A B D
第6回	(対面) 「もう一人の雄者」(1) 1) 男性名詞と女性名詞って何? 2) 名詞の複数形を書いてみよう 3) 練習問題を解こう	A B C
第7回	(対面) 「もう一人の雄者」(2) 1) 何色の服着てる? 2) 何が飲みたい? 3) グループワークをしよう	A B C
第8回	(対面) 「捕まった!」(1) 1) 「その」「それらの」の冠詞を覚える 2) パリの地方を知ろう 3) 小テスト	A B C
第9回	(対面) Civilisation フランスの社会を知る 1) 恋愛、結婚 2) パックスと同性婚 3) 複合家族	A B D
第10回	(対面) 「捕まった!」(2) 1) 「どの花が好き」を学ぶ 2) 疑問文を知る 3) ペアワークをしよう	A B C
第11回	(対面) Civilisation ヨーロッパの複合言語主義を知る 1) 多言語主義と複合言語主義 2) フランス人は高校までになぜ3言語を学ぶのか。	A B C
第12回	(対面) 「どこにいる?」(1) 1) 縮約形って何? 2) 買い物しよう。 3) 「～へ行く」を学ぶ	A B C
第13回	(対面) 「どこにいる?」(2) 1) カフェで注文しよう 2) 「終わる」を言ってみよう 3) フランス語を聞き取ろう	A B C
第14回	(対面) 「使いこなせ!」(1) 1) 否定してみよう 2) 前置詞を学ぶ 3) 小テスト	A B C
第15回	(対面) Civilisation フランスの社会問題 1) 移民問題 2) 貧困問題	A B D
第16回	(対面) レポート	A B D

学期 / Semester	2025年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	水 / Wed 5
開講期間 / Course duration	2025/04/01 ~ 2025/09/28		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General / Transfer/Overseas)	1.0/1.0/1.0
時間割コード / Time schedule code	20250547000502	科目番号 / Course code	05470005
科目ナンバリングコード / Numbering code			
授業科目名 / Course title	● フランスの言語と文化A(言語・異文化理解科目) 1単位科目 / Bridging Language and Culture A (French)		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	大橋 絵理 / Oohashi Eri		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	大橋 絵理 / Oohashi Eri		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	大橋 絵理 / Oohashi Eri		
科目分類 / Course Category	言語・異文化理解科目, 人文・社会科学科目		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	演習 / Seminar
教室 / Class room	教養教育C棟26 / RoomC-26		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	全学生		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	eohashi▲nagasaki-u.ac.jp (メールをする際は、▲を@に置き換えてください。)		
担当教員研究室/Office	環境科学部棟実験棟1階		
担当教員TEL/Tel	095-819-2086		
担当教員オフィスアワー/Office hours	火曜日12:00~12:50 水曜日12:00~12:50 木曜日12:30~12:50		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	3分の1が「フランスの文化」について、3分の2が「フランス語会話」の授業になります。「フランス語会話」の教科書は「正宗伝：RPGで学ぶフランス語」を使います。この教科書は、グループワークが中心で、RPGをコンセプトに、楽しみながら、どうすればフランス語でコミュニケーションが上達するようになるかを考えて作られています。舞台は近未来です。主人公のMasamuneは、SarahやVladimirやAmadouという3人の勇者たちと様々な困難を乗り越えます。ゲームを解きながらフランスで日常よく使われる、カフェでの注文の仕方、道の聞き方、買い物の仕方などの会話を学びます。 「フランスの文化」については、現代のフランスの移民問題や同性婚、またフランス革命や魔女狩り、動物裁判など日本の社会や歴史とは異なった知識を得ることにより、国際的な視野を養います。 さらにフランスの世界遺産、ブティック、美術館、カフェ、レストラン、音楽など、現代の流行の最先端をいくフランスの文化を知り、その映像も沢山紹介します。フランスのニュースや映画を通してフランスと日本との相違を考え、客観的な物の見方を学びます。 フランスに初めて触れる学生を対象にし、フランスへ、旅行、語学研修、留学に行った時、日常生活に必要な基礎的な会話を、無理なく学び、フランスの文化や社会への理解を深めることをねらいとします。 また、「フランスの言語と文化 A」と「フランスの言語と文化 B」の単位を取得すると、1年生後期の3月に3週間のフランス、国立アンジェ大学で「フランス語短期語学留学」に行く権利を得ることができます。		
授業到達目標/Course goals	1) フランス語の発音とつづり字の読み方を身につけ、単語、文、短い文章が音読できるようになる。 2) フランス語の挨拶や自己紹介、旅行や買い物で役に立つ表現を覚え、使えるようになる。 3) 基本動詞 etre 「...です」、avoir 「...を持っています」の活用を覚え、自分について語ったり相手に質問したりできるようになる。 4) 現代のフランスの社会を知ることによって国際的な視野を広げ、将来の展望に役立てることができる。 5) フランスの文化や歴史を学び、日本との相違を考え、異文化への理解を深めることができる。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで) / Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	☐ 汎用的能力 / Generic Competence ☐ 倫理観 / Ethics ☒ 多様性の理解 / Understanding Diversity ☒ 主体性 / Autonomy ☐ 協働性 / Cooperativeness ☐ 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas ☒ 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		

学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	■A.授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ■B.多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives ■C.技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills ■D.問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems □E.上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above □F.教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers	
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	レポート40%、小テスト30%、課題15%、授業態度15%を総合的に判断する。	
各回の授業内容・授業方法（学習指導方法）/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照	
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	事前学習は、授業の最後に次回の内容について説明しますので、教科書を見て内容を理解するようにして下さい。半期で7時間です。 事後学習は、テキストやノートを見ながら内容を確認し、課題やレポートの準備をして下さい。半期で8時間です。	
キーワード/Keywords	フランスの言語と文化 A	
教科書・教材・参考書/Materials	「正宗伝：RPGで学ぶフランス語」（三修社）	
受講要件（履修条件）/Prerequisites		
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006 （FAX）095-819-2948 （E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp	
備考/Remarks	旅行や日常会話のフランス語を楽しく学ぶ。フランス語学習を通じて新しい文化や生活習慣、考え方にふれる。フランス人の目を通して日本の文化を見直す。	
学生へのメッセージ/Message for students	「大学の授業の中で一番フランス語の授業が好きでした！授業を受ける前は、フランス語は難しいと聞いていたし、実際勉強は必要だけれど、すごく楽しかったです！フランスがとても好きになりました！（先輩のメッセージ）」ここまでは思えない人もいのですが、楽しく学べて絶対会話ができるようになる授業を心がけています。	
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N	
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course		
授業計画詳細 / Course Schedule		
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents	授業手法 /
第1回	（対面）Civilisation フランスを知る 1）パリってどんなところ？ 2）フランスの地方を知ろう 3）フランスの海外県	A B D
第2回	（対面）「フランス語ってどんな言葉？」 1）アルファベを発音しよう 2）単語を発音してみよう 3）フランス語で挨拶してみよう	A B C
第3回	（対面）「君は誰だ？」（1） 1）「私は～です」と言ってみよう 2）リエゾンって何？ 3）数を数えよう	A B C
第4回	（対面）「君は誰だ？」（2） 1）「私は、君は」を覚えよう 2）「～人」を覚えよう 3）「～です」を覚えよう	A B C
第5回	（対面）Civilisation フランスの歴史を知る 1）フランス革命 2）魔女裁判 3）動物裁判	A B D

第6回	(対面)「もう一人の雄者」(1) 1) 男性名詞と女性名詞って何? 2) 名詞の複数形を書いてみよう 3) 練習問題を解こう	A B C
第7回	(対面)「もう一人の雄者」(2) 1) 何色の服着てる? 2) 何が飲みたい? 3) グループワークをしよう	A B C
第8回	(対面)「捕まった!」(1) 1) 「その」「それらの」の冠詞を覚える 2) 「～を好き」を学ぼう 3) パリの地方を知ろう	A B C
第9回	(対面) Civilisation フランスの社会を知る 1) 恋愛、結婚 2) パックスと同性婚 3) 複合家族	A B C
第10回	(対面)「捕まった!」(2) 1) 「どの花が好き」を学ぶ 2) 疑問文を知る 3) ペアワークをしよう	A B C
第11回	(対面) Civilisation ヨーロッパの複合言語主義を知る 1) 多言語主義と複合言語主義 2) フランス人は高校までになぜ3言語を学ぶのか。	A B D
第12回	(対面)「どこにいる?」(1) 1) 縮約形って何? 2) 買い物しよう。 3) 「～へ行く」を学ぶ	A B C
第13回	(対面)「どこにいる?」(2) 1) カフェで注文しよう 2) 「終わる」を言ってみよう 3) フランス語を聞き取ろう	A B C
第14回	(対面)「使いこなせ!」(1) 1) 否定してみよう 2) 前置詞を学ぶ 3) メールを書こう	A B C
第15回	(対面) Civilisation フランスの社会問題 1) 移民問題 2) 貧困問題	A B D
第16回	(対面) レポート	A B D

学期 / Semester	2025年度 / Academic Year 後期 / Second Semester	曜日・校時 / Day・Period	水 / Wed 3
開講期間 / Course duration	2025/09/29 ~ 2026/03/31		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General / Transfer/Overseas)	1.0/1.0/1.0
時間割コード / Time schedule code	20250547000701	科目番号 / Course code	05470007
科目ナンバリングコード / Numbering code			
授業科目名 / Course title	● フランスの言語と文化B(言語・異文化理解科目) 1単位科目 / Bridging Language and Culture B (French)		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	大橋 絵理 / Oohashi Eri		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	大橋 絵理 / Oohashi Eri		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	大橋 絵理 / Oohashi Eri		
科目分類 / Course Category	言語・異文化理解科目, 人文・社会科学科目		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	演習 / Seminar
教室 / Class room	教養教育C棟26 / RoomC-26		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	全学生		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	eohashi▲nagasaki-u.ac.jp (メールをする際は、▲を@に置き換えてください。)		
担当教員研究室/Office	環境科学部棟実験棟1階		
担当教員TEL/Tel	095-819-2086		
担当教員オフィスアワー/Office hours	火曜日12:00~12:50 水曜日12:00~12:50 木曜日12:30~12:50		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	3分の1が「フランスの文化」について、3分の2が「フランス語会話」の授業になります。教科書は、前期の続きの「正宗伝：RPGで学ぶフランス語」を使います。この教科書は、グループワークが中心で、RPGをコンセプトに、楽しみながら、どうすればフランス語でコミュニケーションが上手に取れるようになるかを考えて作られています。舞台は近未来です。主人公のMasamuneは、SarahやVladimirやAmadouという3人の勇者たちと様々な困難を乗り越えます。ゲームを解きながらフランスで日常よく使われる会話を学びます。 「フランスの文化」については、現代のフランスの教育制度や複合言語主義、フランスの映画、世界遺産、フランス文学など日本の社会や歴史とは異なった知識を得ることにより、国際的な視野を養い、グループワークにより自分たちの情報をフランスに発信できるようにします。 さらに、フランスのニュースや映画を通してフランスと日本との相違を考え、客観的な物の見方を学びます。 フランスへ旅行、語学研修、留学に行った時、日常生活に必要な基礎的な会話を、無理なく学び、フランスの文化や社会への理解を深めることをねらいとします。 フランスへ、旅行、語学研修、留学に行った時、日常生活に必要な基礎的な会話を、無理なく学び、フランスの文化や社会への理解を深めることをねらいとします。 また、「フランスの言語と文化 A」と「フランスの言語と文化 B」の単位を取得すると、1年生後期の3月に3週間のフランス、国立アンジェ大学で「フランス語短期語学留学」に行く権利を得ることができます。		
授業到達目標/Course goals	1) 「行く」「来る」「ここはどこ?」などの基本動詞や基本表現を使えるようになる。 2) 形容詞や代名詞を使い、近い未来や近い過去などを使えるようになる。 3) フランスでの生活に不可欠な道の尋ね方、ホテルの泊り方、レストランでの注文の仕方ができるようになる。 4) 現代のフランスの社会を知ることによって国際的な視野を広げ、将来の展望に役立てることができるようになる。 5) フランスの文化や歴史を学び、日本との相違を考え、異文化への理解を深めることができるようになる。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで)/Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	■ 汎用的能力 / Generic Competence □ 倫理観 / Ethics ■ 多様性の理解 / Understanding Diversity □ 主体性 / Autonomy □ 協働性 / Cooperativeness □ 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas ■ 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		

学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	■A.授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ■B.多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives ■C.技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills □D.問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems □E.上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above □F.教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers	
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	レポート40%、小テスト30%、課題15%、授業態度15%、を総合的に判断する。	
各回の授業内容・授業方法（学習指導方法）/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照	
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	事前学習は、授業の最後に次回の内容について説明しますので、教科書を見て内容を理解するようにして下さい。半期で7時間です。 事後学習は、テキストやノートを見ながら内容を確認し、課題やレポートの準備をして下さい。半期で8時間です。	
キーワード/Keywords	フランス語の言語と文化B	
教科書・教材・参考書/Materials	「正宗伝：RPGで学ぶフランス語」（三修社）	
受講要件（履修条件）/Prerequisites	本授業は、前期開講科目【フランスの言語と文化A】を受講済みであることを前提に進められます。 そのため、同科目を受講済みの学生が望ましいです。 未受講の場合、授業内容の理解が難しくなる可能性があります。 このことを念頭に受講を決めてください。	
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006（FAX）095-819-2948 （E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp	
備考/Remarks	旅行や日常会話のフランス語を楽しく学びます。フランス語学習を通じて新しい文化や生活習慣、考え方にふれる。フランス人の目を通して日本の文化を見直し、国際理解を深めます。	
学生へのメッセージ/Message for students	楽しく日常会話ができるようにしましょう。意見や疑問に思ったことは、授業中でも授業が終わった後でも、積極的に質問して下さい。語学はコミュニケーションのために勉強します。質問も大切なコミュニケーションです。 フランスの短期留学も可能になります。	
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N	
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course		
授業計画詳細 / Course Schedule		
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents	授業手法 /
第1回	（対面）Civilisation フランスの教育制度 1）フランスは小学生から留年がある？ 2）フランスの大学生活 3）自分の大学生活をフランス語で話してみよう	A B D
第2回	（対面）「使いこなせ！」（1） 1）否定してみよう 2）前置詞を学ぶ 3）ペアレッスン	A B C
第3回	（対面）「使いこなせ！」（2） 1）比較してみる 2）食べ物、飲み物に冠詞をつける 3）練習問題を解く	A B C
第4回	（対面）「師匠のもとへ」（1） 1）近い未来を言う 2）時間を聞いて答えよう 3）ペアレッスン	A B C

第5回	(対面) Civilisation フランスの映画 1) 最初に映画を作ったリュミエール兄弟を知る 2) 芸術としての映画 3) 日本映画との関係	A B D
第6回	(対面) 「師匠のもとへ」(2) 1) 「どうして」「だって」を覚えよう 2) 1日の時間の使い方を知ろう 3) 練習問題を解く	A B C
第7回	(対面) 「パワーを獲得」(1) 1) 体の部分の単語を覚える 2) おなか痛い? 3) 「～が欲しい」の動詞を学ぶ	A B C
第8回	(対面) 「パワーを獲得」(2) 1) 近い過去を学ぶ 2) 欲しいもの何? 3) グループワーク	A B C
第9回	(対面) フランス語でパワーポイントを作ろう 1) 写真入りで自己紹介の文章を書こう 2) 写真入りで自分の好きなものを紹介しよう	A B C
第10回	(対面) Civilisation フランスの世界遺産と歴史を知ろう 1) モンサンミシエルとカトリシズム 2) ヴェルサイユ宮殿と絶対王政 3) アルルとローマ帝国	A B D
第11回	(対面) 「臨戦態勢」(1) 1) 動詞 devoir (ねばならない) と pouvoir (できる) の使い方を知ろう 2) ある人物(ペット)の特徴を言い表してみよう 3) 好き嫌いの言い方を覚えよう	A B C
第12回	(対面) Civilisation フランスの思想を知る。 1) 子供らしさ 2) 男性らしさと女性らしさ	A B C
第13回	(対面) 「対決の時」(1) 1) 曜日と日にちの言い方、いろいろな時の表現を知ろう。 2) 複合過去形(...した)の作り方を身につけよう	A B C
第14回	(対面) 「対決の時」(2) 1) savoir (知っている, ...できる) の使い方を知ろう。 2) グループで力を合わせてWANOの野望を読み取ってみよう。 3) 半過去形(...していた)の作り方を身につけよう	A B C
第15回	(対面) Civilisation フランス文学 1) 『星の王子様』の意味するもの 2) 文学の中の温泉保養地	A B C
第16回	レポート提出	A B D

学期 / Semester	2025年度 / Academic Year 後期 / Second Semester	曜日・校時 / Day・Period	水 / Wed 5
開講期間 / Course duration	2025/09/29 ~ 2026/03/31		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General /Transfer/Overseas)	1.0/1.0/1.0
時間割コード / Time schedule code	20250547000702	科目番号 / Course code	05470007
科目ナンバリングコード / Numbering code			
授業科目名 / Course title	● フランスの言語と文化B(言語・異文化理解科目) 1単位科目 / Bridging Language and Culture B (French)		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	大橋 絵理 / Oohashi Eri		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	大橋 絵理 / Oohashi Eri		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	大橋 絵理 / Oohashi Eri		
科目分類 / Course Category	言語・異文化理解科目, 人文・社会科学科目		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	演習 / Seminar
教室 / Class room	教養教育C棟26 / RoomC-26		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	全学生		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	eohashi ▲nagasaki-u.ac.jp (メールをする際は、▲を@に置き換えてください。)		
担当教員研究室/Office	環境科学部棟実験棟1階		
担当教員TEL/Tel	095-819-2086		
担当教員オフィスアワー/Office hours	火曜日12:00~12:50 水曜日12:00~12:50 木曜日12:30~12:50		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	3分の1が「フランスの文化」について、3分の2が「フランス語会話」の授業になります。教科書は、前期の続きの「正宗伝：RPGで学ぶフランス語」を使います。この教科書は、グループワークが中心で、RPGをコンセプトに、楽しみながら、どうすればフランス語でコミュニケーションが上手に取れるようになるかを考えて作られています。舞台は近未来です。主人公のMasamuneは、SarahやVladimirやAmadouという3人の勇者たちと様々な困難を乗り越えます。ゲームを解きながらフランスで日常よく使われる会話を学びます。 「フランスの文化」については、現代のフランスの教育制度や複合言語主義、フランスの映画、世界遺産、フランス文学など日本の社会や歴史とは異なった知識を得ることにより、国際的な視野を養い、グループワークにより自分たちの情報をフランスに発信できるようにします。 さらに、フランスのニュースや映画を通してフランスと日本との相違を考え、客観的な物の見方を学びます。 フランスへ旅行、語学研修、留学に行った時、日常生活に必要な基礎的な会話を、無理なく学び、フランスの文化や社会への理解を深めることをねらいとします。 フランスへ、旅行、語学研修、留学に行った時、日常生活に必要な基礎的な会話を、無理なく学び、フランスの文化や社会への理解を深めることをねらいとします。 また、「フランスの言語と文化 A」と「フランスの言語と文化 B」の単位を取得すると、1年生後期の3月に3週間のフランス、国立アンジェ大学で「フランス語短期語学留学」に行く権利を得ることができます。		
授業到達目標/Course goals	1) 「行く」「来る」「ここはどこ?」などの基本動詞や基本表現を使えるようになる。 2) 形容詞や代名詞を使い、近い未来や近い過去などを使えるようになる。 3) フランスでの生活に不可欠な道の尋ね方、ホテルの泊り方、レストランでの注文の仕方ができるようになる。 4) 現代のフランスの社会を知ることによって国際的な視野を広げ、将来の展望に役立てることができるようになる。 5) フランスの文化や歴史を学び、日本との相違を考え、異文化への理解を深めることができるようになる。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで) / Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	☐ 汎用的能力 / Generic Competence ☐ 倫理観 / Ethics ☒ 多様性の理解 / Understanding Diversity ☒ 主体性 / Autonomy ☐ 協働性 / Cooperativeness ☐ 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas ☒ 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		

学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	■A.授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ■B.多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives ■C.技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills □D.問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems □E.上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above □F.教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers	
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	レポート40%、小テスト30%、課題15%、授業態度15%を総合的に判断する。	
各回の授業内容・授業方法（学習指導方法）/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照	
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	事前学習は、授業の最後に次回の内容について説明しますので、教科書を見て内容を理解するようにして下さい。半期で7時間です。 事後学習は、テキストやノートを見ながら内容を確認し、課題やレポートの準備をして下さい。半期で8時間です。	
キーワード/Keywords	フランスの言語と文化 B	
教科書・教材・参考書/Materials	「正宗伝：RPGで学ぶフランス語」（三修社）	
受講要件（履修条件）/Prerequisites	本授業は、前期開講科目【フランスの言語と文化A】を受講済みであることを前提に進められます。 そのため、同科目を受講済みの学生が望ましいです。 未受講の場合、授業内容の理解が難しくなる可能性があります。 このことを念頭に受講を決めてください。	
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006（FAX）095-819-2948 （E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp	
備考/Remarks	旅行や日常会話のフランス語を楽しく学ぶ。フランス語学習を通じて新しい文化や生活習慣、考え方にふれる。フランス人の目を通して日本の文化を見直す。	
学生へのメッセージ/Message for students	楽しく日常会話ができるようにしましょう。意見や疑問に思ったことは、授業中でも授業が終わった後でも、積極的に質問して下さい。語学はコミュニケーションのために勉強します。質問も大切なコミュニケーションです。	
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N	
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course		
授業計画詳細 / Course Schedule		
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents	授業手法 /
第1回	（対面）Civilisation フランスの教育制度 1）フランスは小学生から留年がある？ 2）フランスの大学生活 3）自分の大学生活をフランス語で話してみよう	A B D
第2回	（対面）「使いこなせ！」（1） 1）否定してみよう 2）前置詞を学ぶ 3）ペアレッスン	A B C
第3回	（対面）「使いこなせ！」（2） 1）比較してみる 2）食べ物、飲み物に冠詞をつける 3）練習問題を解く	A B C
第4回	（対面）「師匠のもとへ」（1） 1）近い未来を言う 2）時間を聞いて答えよう 3）ペアレッスン	A B C

第5回	(対面) Civilisation フランスの映画 1) 最初に映画を作ったリュミエール兄弟を知る 2) 芸術としての映画 3) 日本映画との関係	A B D
第6回	(対面) 「師匠のもとへ」(2) 1) 「どうして」「だって」を覚えよう 2) 1日の時間の使い方を知ろう 3) 練習問題を解く	A B C
第7回	(対面) 「パワーを獲得」(1) 1) 体の部分の単語を覚える 2) おなか痛い? 3) 「～が欲しい」の動詞を学ぶ	A B C
第8回	(対面) 「パワーを獲得」(2) 1) 近い過去を学ぶ 2) 欲しいもの何? 3) グループワークをしよう	A B C
第9回	(対面) フランス語でパワーポイントを作ろう 1) 写真入りで自己紹介の文章を書こう 2) 写真入りで自分の好きなものを紹介しよう	A B C
第10回	(対面) Civilisation フランスの世界遺産と歴史を知ろう 1) モンサンミシエルとカトリシズム 2) ヴェルサイユ宮殿と絶対王政 3) アルルとローマ帝国	A B D
第11回	(対面) 「臨戦態勢」(1) 1) 動詞 devoir (ねばならない) と pouvoir (できる) の使い方を知ろう 2) ある人物(ペット)の特徴を言い表してみよう 3) 好き嫌いの言い方を覚えよう	A B C
第12回	(対面) Civilisation フランスの思想を知る。 1) 子供らしさ 2) 男性らしさと女性らしさ	A B C
第13回	(対面) 「対決の時」(1) 1) 曜日と日にちの言い方、いろいろな時の表現を知ろう。 2) 複合過去形(...した)の作り方を身につけよう	A B C
第14回	(対面) 「対決の時」(2) 1) savoir (知っている, ...できる) の使い方を知ろう。 2) グループで力を合わせてWANOの野望を読み取ってみよう。 3) 半過去形(...していた)の作り方を身につけよう	A B C
第15回	(対面) Civilisation フランス文学 1) 『星の王子様』の意味するもの 2) 文学の中の温泉保養地	A B D
第16回	(対面) レポート提出	A B D

学期 / Semester	2025年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	水 / Wed 3
開講期間 / Course duration	2025/04/01 ~ 2025/09/28		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General /Transfer/Overseas)	1.0/1.0/1.0
時間割コード / Time schedule code	20250547000901	科目番号 / Course code	05470009
科目ナンバリングコード / Numbering code			
授業科目名 / Course title	●中国の言語と文化A(言語・異文化理解科目) 1単位科目 / Bridging Language and Culture A (Chinese)		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	楊 曉安 / Yang Xiaoan		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	楊 曉安 / Yang Xiaoan		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	楊 曉安 / Yang Xiaoan		
科目分類 / Course Category	言語・異文化理解科目, 人文・社会科学科目		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	演習 / Seminar
教室 / Class room	教養教育B棟15 / RoomB-15		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	全学生		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	xiaoan▲nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は▲を@に置き換えて送信してください)		
担当教員研究室/Office	環境科学部1階		
担当教員TEL/Tel	095-819-2166		
担当教員オフィスアワー/Office hours	火曜日4校時		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	この授業の主な目的は二つあります。 一つ目は、中国語の基本的な発音と文法を学ぶことです。授業での指導や発音・会話練習を通じて、学生が中国語の発音の基礎を習得し、実践的な会話を身につけるとともに、中国語文法を体系的に理解することを目指します。 二つ目は、中国文化のいくつかの特徴を紹介し、日中文化の共通点や相違点について考察する機会を提供することで、学生の異文化理解力を向上させることです。		
授業到達目標/Course goals	中国語 中国語の音を正確に聞き分け、正しく発音できるようにする。 中国語の音声表記(ピンイン)を習得する。 基本的な構文を学び、日常会話表現を身につける。 日本中国語検定試験の準4級合格を目指す。 中国文化 中国文化の特徴を理解し、日本文化との共通点や相違点について考察することで、異文化理解力を向上させる。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで)/Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	☐ 汎用的能力 / Generic Competence ☐ 倫理観 / Ethics ■多様性の理解 / Understanding Diversity ■主体性 / Autonomy ☐ 協働性 / Cooperativeness ■考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas ☐ 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	■A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ☐ B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives ☐ C. 技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills ☐ D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems ☐ E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above ☐ F. 教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	期末試験(50%)、中国文化の課題(2回、30%)、授業への積極的な参加(20%)などを総合して評価する。		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法)/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前・事後学修の内容/Preparation & Review	予習: 事前に指定した教科書の範囲に目を通すこと(1時間/回) 復習: 教科書・プリントの該当箇所を復習すること(1時間/回)		
キーワード/Keywords			
教科書・教材・参考書/Materials	中国語教科書: 楊曉安・高芳『ポイントチェック・初級中国語』(同学社) 中国言語文化に関するプリント配布		

受講要件（履修条件）/Prerequisites	単位を取るためには、3分の2以上の出席が必要です。3分の1以上欠席すると統一試験と期末テストは受けられません。遅刻3回は欠席1回の扱いになります。
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006 （FAX）095-819-2948 （E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考/Remarks	対面で実施します。
学生へのメッセージ/Message for students	日本では、英語に加えて中国語を学ぶことも、将来大いに役立つと考えられています。外国語を学ぶ際には、まず発音を重視することが大切です。特に日本人にとって中国語の発音は難しいため、焦らず根気強く練習を重ねて習得しましょう。 次に、基本的な構文を身につけ、簡単な語彙を少しずつ増やしていきましょう。「たくさん聴き・覚え・話し・読む」ことが効率的な学習方法です。 さらに、中国文化を学び理解することで、視野を広げるとともに、日中文化の共通点や相違点を比較し、異文化への理解を深めることができます。
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	第1課 中国語の発音(1) 母音(1) a/o/e/i/u/ai/ei/ao/ou / 子音(1) 唇音b/p/m/f 舌尖音d/t/n/l / 声調(1) 四声/子声調記号のつけ方/有気音と無気音
第2回	第2課 中国語の発音(2) 母音(2) an/en/ang/eng/ong/ua/uo/uai/uei(ui)/uan/uen(un)/uang/ueng / 子音(2) 舌根音 g/k/h / 声調(2) 軽声/鼻音nとngを伴う母音
第3回	第3課 中国語の発音(3) 母音(3) ia/ie/iao/iou(iu) /ian/in/iang/ing/iong/üe/üan/ün ・子音(3) 舌面音j/q/x ・声調(3) “不” bùの変調 ・ウムラウト(¨)の省略
第4回	第4課 中国語の発音(4) 母音(4) 3種のi ・子音(4) そり舌音zh/ch/sh/r 舌歯音 z/c/s ・声調(4) 第3声の連続変調・“儿化” r（アル）化の音・隔音符号
第5回	発音の復習 子音一覧表・母音一覧表・音節の基本構造・母音が単独で音節をなす時の表記法・声調の組み合わせ
第6回	第5課 『你叫什麼名字？』 学習ポイント：名前の言い方・尋ね方・人称代名詞・判断文(動詞“是”)・“吗”疑問文・コラム：中国の人口
第7回	第6課 『你家有幾口人？』 学習ポイント：家族の呼称・所有の“有”・数詞（中国語の数え方）・常用量詞・コラム：中国の民族構成
第8回	第7課 『这是什么？』 学習ポイント：指示代名詞・副詞「也」・「都」・構造助詞「的 de」・疑問詞「什么」・コラム：中国地形の三大特徴
第9回	第8課 『今年二〇二幾年？』 学習ポイント：年/月/日/曜日/一日・名詞述語文・時間と時刻の言い方・コラム：中国の七大方言
第10回	第1課から第8課までの復習
第11回	中国語という言葉について
第12回	中国語の同音語と中国文化
第13回	中国の言語禁忌について
第14回	中国の親族呼称について
第15回	総合復習
第16回	期末試験

学期 / Semester	2025年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	水 / Wed 5
開講期間 / Course duration	2025/04/01 ~ 2025/09/28		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General /Transfer/Overseas)	1.0/1.0/1.0
時間割コード / Time schedule code	20250547000902	科目番号 / Course code	05470009
科目ナンバリングコード / Numbering code			
授業科目名 / Course title	●中国の言語と文化A(言語・異文化理解科目) 1単位科目 / Bridging Language and Culture A (Chinese)		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	楊 曉安 / Yang Xiaoan		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	楊 曉安 / Yang Xiaoan		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	楊 曉安 / Yang Xiaoan		
科目分類 / Course Category	言語・異文化理解科目, 人文・社会科学科目		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	演習 / Seminar
教室 / Class room	教養教育B棟15 / RoomB-15		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	全学生		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	xiaoan▲nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は▲を@に置き換えて送信してください)		
担当教員研究室/Office	環境科学部1階		
担当教員TEL/Tel	095-819-2166		
担当教員オフィスアワー/Office hours	火曜日4校時		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	この授業の主な目的は二つあります。 一つ目は、中国語の基本的な発音と文法を学ぶことです。授業での指導や発音・会話練習を通じて、学生が中国語の発音の基礎を習得し、実践的な会話を身につけるとともに、中国語文法を体系的に理解することを目指します。 二つ目は、中国文化のいくつかの特徴を紹介し、日中文化の共通点や相違点について考察する機会を提供することで、学生の異文化理解力を向上させることです。		
授業到達目標/Course goals	中国語 中国語の音を正確に聞き分け、正しく発音できるようにする。 中国語の音声表記(ピンイン)を習得する。 基本的な構文を学び、日常会話表現を身につける。 日本中国語検定試験の準4級合格を目指す。 中国文化 中国文化の特徴を理解し、日本文化との共通点や相違点について考察することで、異文化理解力を向上させる。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで)/Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	□汎用的能力 / Generic Competence □倫理観 / Ethics ■多様性の理解 / Understanding Diversity ■主体性 / Autonomy □協働性 / Cooperativeness ■考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas □国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	■A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over □B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives □C. 技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills □D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems □E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above □F. 教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	期末試験(50%)、中国文化の課題(2回、30%)、授業への積極的な参加(20%)などを総合して評価する。		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法)/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前・事後学修の内容/Preparation & Review	予習: 事前に指定した教科書の範囲に目を通すこと(1時間/回) 復習: 教科書・プリントの該当箇所を復習すること(1時間/回)		
キーワード/Keywords			
教科書・教材・参考書/Materials	中国語教科書: 楊曉安・高芳『ポイントチェック・初級中国語』(同学社) 中国言語文化に関するプリント配布		

受講要件（履修条件）/Prerequisites	単位を取るためには、3分の2以上の出席が必要です。3分の1以上欠席すると統一試験と期末テストは受けられません。遅刻3回は欠席1回の扱いになります。
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006 （FAX）095-819-2948 （E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考/Remarks	対面で実施します。
学生へのメッセージ/Message for students	日本では、英語に加えて中国語を学ぶことも、将来大いに役立つと考えられています。外国語を学ぶ際には、まず発音を重視することが大切です。特に日本人にとって中国語の発音は難しいため、焦らず根気強く練習を重ねて習得しましょう。 次に、基本的な構文を身につけ、簡単な語彙を少しずつ増やしていきましょう。「たくさん聴き・覚え・話し・読む」ことが効率的な学習方法です。 さらに、中国文化を学び理解することで、視野を広げるとともに、日中文化の共通点や相違点を比較し、異文化への理解を深めることができます。
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	第1課 中国語の発音(1) 母音(1) a/o/e/i/u/ai/ei/ao/ou / 子音(1) 唇音b/p/m/f 舌尖音d/t/n/l / 声調(1) 四声/子声調記号のつけ方/有気音と無気音
第2回	第2課 中国語の発音(2) 母音(2) an/en/ang/eng/ong/ua/uo/uai/uei(ui)/uan/uen(un)/uang/ueng / 子音(2) 舌根音 g/k/h / 声調(2) 軽声/鼻音nとngを伴う母音
第3回	第3課 中国語の発音(3) 母音(3) ia/ie/iao/iou(iu) /ian/in/iang/ing/iong/üe/üan/ün ・子音(3) 舌面音j/q/x ・声調(3) “不” bùの変調 ・ウムラウト(¨)の省略
第4回	第4課 中国語の発音(4) 母音(4) 3種のi ・子音(4) そり舌音zh/ch/sh/r 舌歯音 z/c/s ・声調(4) 第3声の連続変調・“儿化” r（アル）化の音・隔音符号
第5回	発音の復習 子音一覧表・母音一覧表・音節の基本構造・母音が単独で音節をなす時の表記法・声調の組み合わせ
第6回	第5課 『你叫什麼名字？』 学習ポイント：名前の言い方・尋ね方・人称代名詞・判断文(動詞“是”)・“吗”疑問文・コラム：中国の人口
第7回	第6課 『你家有幾口人？』 学習ポイント：家族の呼称・所有の“有”・数詞（中国語の数え方）・常用量詞・コラム：中国の民族構成
第8回	第7課 『这是什么？』 学習ポイント：指示代名詞・副詞「也」・「都」・構造助詞「的 de」・疑問詞「什么」・コラム：中国地形の三大特徴
第9回	第8課 『今年二〇二幾年？』 学習ポイント：年/月/日/曜日/一日・名詞述語文・時間と時刻の言い方・コラム：中国の七大方言
第10回	第1課から第8課までの復習
第11回	中国語という言葉について
第12回	中国語の同音語と中国文化
第13回	中国の言語禁忌について
第14回	中国の親族呼称について
第15回	総合復習
第16回	期末試験

学期 / Semester	2025年度 / Academic Year 後期 / Second Semester	曜日・校時 / Day・Period	水 / Wed 3
開講期間 / Course duration	2025/09/29 ~ 2026/03/31		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General /Transfer/Overseas)	1.0/1.0/1.0
時間割コード / Time schedule code	20250547001101	科目番号 / Course code	05470011
科目ナンバリングコード / Numbering code			
授業科目名 / Course title	●中国の言語と文化B(言語・異文化理解科目) 1単位科目 / Bridging Language and Culture B (Chinese)		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	楊 曉安 / Yang Xiaolan		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	楊 曉安 / Yang Xiaolan		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	楊 曉安 / Yang Xiaolan		
科目分類 / Course Category	言語・異文化理解科目, 人文・社会科学科目		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	演習 / Seminar
教室 / Class room	教養教育B棟15 / RoomB-15		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	全学生		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	xiaolan▲nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は▲を@に置き換えて送信してください)		
担当教員研究室/Office	環境科学部1階		
担当教員TEL/Tel	095-819-2166		
担当教員オフィスアワー/Office hours	火曜日4校時		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	この授業の主な目的は二つあります。 一つ目は、中国語の基本的な発音と文法を学ぶことです。授業での指導や発音・会話練習を通じて、学生が中国語の発音の基礎を習得し、実践的な会話を身につけるとともに、中国語文法を体系的に理解することを目指します。 二つ目は、中国文化のいくつかの特徴を紹介し、日中文化の共通点や相違点について考察する機会を提供することで、学生の異文化理解力を向上させることです。		
授業到達目標/Course goals	中国語 中国語の音を正確に聞き分け、正しく発音できるようにする。 中国語の音声表記(ピンイン)を習得する。 基本的な構文を学び、日常会話表現を身につける。 日本中国語検定試験の準4級合格を目指す。 中国文化 中国文化の特徴を理解し、日本文化との共通点や相違点について考察することで、異文化理解力を向上させる。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで)/Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	□汎用的能力 / Generic Competence □倫理観 / Ethics ■多様性の理解 / Understanding Diversity ■主体性 / Autonomy □協働性 / Cooperativeness □考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas ■国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	■A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over □B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives □C. 技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills □D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems □E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above □F. 教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	期末試験(50%)、中国文化の課題(2回、30%)、授業への積極的な参加(20%)などを総合して評価する。		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法)/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	予習: 事前に指定した教科書の範囲に目を通すこと(1時間/回) 復習: 教科書・プリントの該当箇所を復習すること(1時間/回)		
キーワード/Keywords			
教科書・教材・参考書/Materials	中国語教科書: 楊曉安・高芳『ポイントチェック・初級中国語』(同学社) 中国言語文化に関するプリント配布		

受講要件（履修条件）/Prerequisites	本授業は、前期開講科目【中国の言語と文化A】を受講済みであることを前提に進められます。そのため、同科目を受講済みの学生が望ましいです。 未受講の場合、授業内容の理解が難しくなる可能性があります。 このことを念頭に受講を決めてください。 単位を取るためには、3分の2以上の出席が必要です。3分の1以上欠席すると統一試験と期末テストは受けられません。遅刻3回は欠席1回の扱いになります。
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006 （FAX）095-819-2948 （E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考/Remarks	対面で実施します。
学生へのメッセージ/Message for students	日本では、英語に加えて中国語を学ぶことも、将来大いに役立つと考えられています。外国語を学ぶ際には、まず発音を重視することが大切です。特に日本人にとって中国語の発音は難しいため、焦らず根気強く練習を重ねて習得しましょう。 次に、基本的な構文を身につけ、簡単な語彙を少しずつ増やしていきましょう。「たくさん聴き・覚え・話し・読む」ことが効率的な学習方法です。 さらに、中国文化を学び理解することで、視野を広げるとともに、日中文化の共通点や相違点を比較し、異文化への理解を深めることができます。
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	第9課 『你去哪儿？』 学習ポイント：疑問詞・存在を表す動詞「有」と「在」・方向や位置を表す語・コラム：中国の十大古都
第2回	第10課 『你家离学校远吗？』 学習ポイント：介詞“从、到、离”・二重目的語・変化表す“了”・構造助詞“地”・コラム：中国の八大名山
第3回	第11課 『东京冬天冷不冷？』 学習ポイント：形容詞述語文・程度副詞・比較の表現・“有点儿”和“一点儿”・コラム：中国の世界遺産
第4回	第9課 - 第11課の復習
第5回	第12課 『妈妈在干什么？』 学習ポイント：アスペクト助詞「着、了、过」・動詞・副詞・介詞（前置詞）の「在」・助動詞「想」「喜欢」「打算」・コラム：中国の一級行政区画
第6回	第13課 『你会开汽车吗？』 学習ポイント：助動詞「会、能、可以」・連動文・時間詞と時量詞・コラム：中国の八大料理
第7回	第14課 『你怎么又吃饺子？』 学習ポイント：副詞「又」と「再」・選択疑問文・「把」構文・受身の表現・コラム：中国学校教育の制度
第8回	第15課 『今天我买了很多酒』 学習ポイント：構造助詞“得”・使役文・動詞と前置詞の「给」・原因・方法を問う「怎么」・コラム：中国十大都市
第9回	第12課 - 第15課の復習
第10回	中国語の色彩語と中国文化
第11回	中国語語順と中国文化
第12回	漢字から見た中国伝統女性観
第13回	中国語の多義文
第14回	中国語文法のなとめ
第15回	総合復習
第16回	期末試験

学期 / Semester	2025年度 / Academic Year 後期 / Second Semester	曜日・校時 / Day・Period	水 / Wed 5
開講期間 / Course duration	2025/09/29 ~ 2026/03/31		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General /Transfer/Overseas)	1.0/1.0/1.0
時間割コード / Time schedule code	20250547001102	科目番号 / Course code	05470011
科目ナンバリングコード / Numbering code			
授業科目名 / Course title	●中国の言語と文化B(言語・異文化理解科目) 1単位科目 / Bridging Language and Culture B (Chinese)		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	楊 曉安 / Yang Xiaolan		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	楊 曉安 / Yang Xiaolan		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	楊 曉安 / Yang Xiaolan		
科目分類 / Course Category	言語・異文化理解科目, 人文・社会科学科目		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	演習 / Seminar
教室 / Class room	教養教育B棟15 / RoomB-15		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	全学生		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	xiaolan▲nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は▲を@に置き換えて送信してください)		
担当教員研究室/Office	環境科学部1階		
担当教員TEL/Tel	095-819-2166		
担当教員オフィスアワー/Office hours	火曜日4校時		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	この授業の主な目的は二つあります。 一つ目は、中国語の基本的な発音と文法を学ぶことです。授業での指導や発音・会話練習を通じて、学生が中国語の発音の基礎を習得し、実践的な会話を身につけるとともに、中国語文法を体系的に理解することを目指します。 二つ目は、中国文化のいくつかの特徴を紹介し、日中文化の共通点や相違点について考察する機会を提供することで、学生の異文化理解力を向上させることです。		
授業到達目標/Course goals	中国語 中国語の音を正確に聞き分け、正しく発音できるようにする。 中国語の音声表記(ピンイン)を習得する。 基本的な構文を学び、日常会話表現を身につける。 日本中国語検定試験の準4級合格を目指す。 中国文化 中国文化の特徴を理解し、日本文化との共通点や相違点について考察することで、異文化理解力を向上させる。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで)/Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	□汎用的能力 / Generic Competence □倫理観 / Ethics ■多様性の理解 / Understanding Diversity ■主体性 / Autonomy □協働性 / Cooperativeness □考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas ■国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	■A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over □B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives □C. 技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills □D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems □E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above □F. 教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	期末試験(50%)、中国文化の課題(2回、30%)、授業への積極的な参加(20%)などを総合して評価する。		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法)/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前・事後学修の内容/Preparation & Review	予習: 事前に指定した教科書の範囲に目を通すこと(1時間/回) 復習: 教科書・プリントの該当箇所を復習すること(1時間/回)		
キーワード/Keywords			
教科書・教材・参考書/Materials	中国語教科書: 楊曉安・高芳『ポイントチェック・初級中国語』(同学社) 中国言語文化に関するプリント配布		

受講要件（履修条件）/Prerequisites	本授業は、前期開講科目【中国の言語と文化A】を受講済みであることを前提に進められます。そのため、同科目を受講済みの学生が望ましいです。 未受講の場合、授業内容の理解が難しくなる可能性があります。 このことを念頭に受講を決めてください。 単位を取るためには、3分の2以上の出席が必要です。3分の1以上欠席すると統一試験と期末テストは受けられません。遅刻3回は欠席1回の扱いになります。
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006 （FAX）095-819-2948 （E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考/Remarks	対面で実施します。
学生へのメッセージ/Message for students	日本では、英語に加えて中国語を学ぶことも、将来大いに役立つと考えられています。外国語を学ぶ際には、まず発音を重視することが大切です。特に日本人にとって中国語の発音は難しいため、焦らず根気強く練習を重ねて習得しましょう。 次に、基本的な構文を身につけ、簡単な語彙を少しずつ増やしていきましょう。「たくさん聴き・覚え・話し・読む」ことが効率的な学習方法です。 さらに、中国文化を学び理解することで、視野を広げるとともに、日中文化の共通点や相違点を比較し、異文化への理解を深めることができます。
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	第9課 『你去哪儿？』 学習ポイント：疑問詞・存在を表す動詞「有」と「在」・方向や位置を表す語・コラム：中国の十大古都
第2回	第10課 『你家离学校远吗？』 学習ポイント：介詞“从、到、离”・二重目的語・変化表す“了”・構造助詞“地”・コラム：中国の八大名山
第3回	第11課 『东京冬天冷不冷？』 学習ポイント：形容詞述語文・程度副詞・比較の表現・“有点儿”和“一点儿”・コラム：中国の世界遺産
第4回	第9課 - 第11課の復習
第5回	第12課 『妈妈在干什么？』 学習ポイント：アスペクト助詞「着、了、过」・動詞・副詞・介詞（前置詞）の「在」・助動詞「想」「喜欢」「打算」・コラム：中国の一級行政区画
第6回	第13課 『你会开汽车吗？』 学習ポイント：助動詞「会、能、可以」・連動文・時間詞と時量詞・コラム：中国の八大料理
第7回	第14課 『你怎么又吃饺子？』 学習ポイント：副詞「又」と「再」・選択疑問文・「把」構文・受身の表現・コラム：中国学校教育の制度
第8回	第15課 『今天我买了很多酒』 学習ポイント：構造助詞“得”・使役文・動詞と前置詞の「给」・原因・方法を問う「怎么」・コラム：中国十大都市
第9回	第12課 - 第15課の復習
第10回	中国語の色彩語と中国文化
第11回	中国語語順と中国文化
第12回	漢字から見た中国伝統女性観
第13回	中国語の多義文
第14回	中国語文法のなとめ
第15回	総合復習
第16回	期末試験

学期 / Semester	2025年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	水 / Wed 3
開講期間 / Course duration	2025/04/01 ~ 2025/09/28		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General /Transfer/Overseas)	1.0/1.0/1.0
時間割コード / Time schedule code	20250547001301	科目番号 / Course code	05470013
科目ナンバリングコード / Numbering code			
授業科目名 / Course title	●韓国の言語と文化A(言語・異文化理解科目) 1単位科目 / Bridging Language and Culture A (Korean)		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	ユウ キョンミ / Yuu Kiyonmi		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	ユウ キョンミ / Yuu Kiyonmi		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	ユウ キョンミ / Yuu Kiyonmi		
科目分類 / Course Category	言語・異文化理解科目, 人文・社会科学科目		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	演習 / Seminar
教室 / Class room	教養教育A棟14 / RoomA-14		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	全学生		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	you-kiss▲nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は▲を@に置き換えて送信してください)		
担当教員研究室/Office	教養教育B棟1階106番研究室		
担当教員TEL/Tel			
担当教員オフィスアワー/Office hours	月～金12:05頃 その他の時間を希望する場合は、授業開始前もしくは終了後にご相談ください。		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	積極的な学生参加型授業を行います。 韓国語の基本的な4技能(聞く、話す、読む、書く)を身につけ、簡単なコミュニケーションができること、 韓国の社会や文化について基本的な知識を身に付け、多様性を理解できることを目標とします。		
授業到達目標/Course goals	1. ハングル文字を読み、書くことができる。 2. 身近なトピックについて、口頭(2分以上)で会話できる。 3. 韓国の社会や文化について、口頭で説明できる。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで) / Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	□汎用的能力 / Generic Competence □倫理観 / Ethics □多様性の理解 / Understanding Diversity ■主体性 / Autonomy ■協働性 / Cooperativeness □考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas ■国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	□A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ■B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives ■C. 技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills □D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems □E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above □F. 教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	授業への取り組み方 20% 目標 課題(2点×10回=20点)+Speaking Test(10点×2回=20点)=40点 56% 目標 ポスターセッション(2点×10回=20点)+定期試験(20点)=40点 24% 合計100点のうち60点以上を合格とする。ただし、定期試験の成績が0点の場合は不合格とする。また、定期試験に欠席した場合は「欠」、出席が3/2に達しない場合は「失」となり、不合格となる。		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法) / Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	毎回配布されるワークシートにより予習復習を行う(0.5h) 教科書及び配布プリントを再読し、理解を確実にするように努める。理解できない点は、そのつど図書館やインターネットを用いて調べ、クラスメートや教員に質問し、解決する(0.5h)		
キーワード/Keywords			
教科書・教材・参考書/Materials	『フォーカス オン フォー4で身につくトライ!韓国語』ゆうきょんみ 朝日出版社 配布プリント 冊子状に整理して(綴じて)授業に持参する。		
受講要件(履修条件) / Prerequisites	出席が3分の2に達しない場合は失格とする。やむを得ず欠席した場合は、教養教育事務室で必要な書類を確認し、教員に提出する。メールや電話で連絡する必要はない。 入室の際、I Cカードリーダーで打刻する。打刻を忘れた場合は、入室の際、出席届出用紙に記入し、教員に提出する。		

アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006 （FAX）095-819-2974 （E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考/Remarks	授業は対面形式で実施します。
学生へのメッセージ/Message for students	教養教育は、異学部の人と関わり合える貴重な機会です。授業で理解できない点があったら、クラスメートに声をかけ、助けてもらいましょう。協働する力は、これからの社会が必要とする資質の一つです。
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	ウォームアップ・アクティビティ ハングルについて（対面）
第2回	Task：透視能力はある？ 教育制度について（対面）
第3回	Task：きょうだいはいる？ 名前について（対面）
第4回	Task：相性No. 1はだれ？ 兵役について（対面）
第5回	Task：クラスの実態調査をしよう 女性について（対面）
第6回	Project 1 自分のことを伝えよう（対面）
第7回	スピーキングテスト （対面）
第8回	ポスターセッション
第9回	Task：夏休みにしたいことは？ 大学生活について（対面）
第10回	Task：私は何をしているのかな？ 政治について（対面）
第11回	Task：予定表を作ろう 食文化について（対面）
第12回	Task：私の趣味は・・・ 外国人について（対面）
第13回	Project 2 身近な人を紹介しよう（対面）
第14回	スピーキングテスト （対面）
第15回	ポスターセッション
第16回	定期試験 ペーパーテスト（対面）

学期 / Semester	2025年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	水 / Wed 5
開講期間 / Course duration	2025/04/01 ~ 2025/09/28		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General /Transfer/Overseas)	1.0/1.0/1.0
時間割コード / Time schedule code	20250547001302	科目番号 / Course code	05470013
科目ナンバリングコード / Numbering code			
授業科目名 / Course title	● 韓国の言語と文化A(言語・異文化理解科目) 1単位科目 / Bridging Language and Culture A (Korean)		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	ユウ キョンミ / Yuu Kiyonmi		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	ユウ キョンミ / Yuu Kiyonmi		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	ユウ キョンミ / Yuu Kiyonmi		
科目分類 / Course Category	言語・異文化理解科目, 人文・社会科学科目		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	演習 / Seminar
教室 / Class room	教養教育A棟14 / RoomA-14		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	全学生		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	you-kiss▲nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は▲を@に置き換えて送信してください)		
担当教員研究室/Office	教養教育B棟1階106番研究室		
担当教員TEL/Tel			
担当教員オフィスアワー/Office hours	月～金12:05頃 その他の時間を希望する場合は、授業開始前もしくは終了後にご相談ください。		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	積極的な学生参加型授業を行います。 韓国語の基本的な4技能(聞く、話す、読む、書く)を身につけ、簡単なコミュニケーションができること、 韓国の社会や文化について基本的な知識を身に付け、多様性を理解できることをことを目標とします。		
授業到達目標/Course goals	1. ハングル文字を読み、書くことができる。 2. 身近なトピックについて、口頭(2分以上)で会話できる。 3. 韓国の社会や文化について、口頭で説明できる。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで) / Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	☐ 汎用的能力 / Generic Competence ☐ 倫理観 / Ethics ☐ 多様性の理解 / Understanding Diversity ■ 主体性 / Autonomy ■ 協働性 / Cooperativeness ☐ 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas ■ 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	☐ A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ■ B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives ■ C. 技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills ☐ D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems ☐ E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above ☐ F. 教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	授業への取り組み方 20% 目標 課題(2点×10回=20点) + Speaking Test (10点×2回=20点) = 40点 56% 目標 ポスターセッション(2点×10回=20点) + 定期試験(20点) = 40点 24% 合計100点のうち60点以上を合格とする。ただし、定期試験で0点の場合は不合格とする。また、定期試験に欠席した場合は「欠」、出席が3/2に達しない場合は「失」となり、不合格となる。		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法) / Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	毎回配布されるワークシートにより予習復習を行う(0.5h) 教科書及び配布プリントを再読し、理解を確実にするように努める。理解できない点は、そのつど図書館やインターネットを用いて調べ、クラスメートや教員に質問し、解決する(0.5h)		
キーワード/Keywords			
教科書・教材・参考書/Materials	『フォーカス オン フォームで身につくトライ!韓国語』ゆうきょんみ 朝日出版社 配布プリント 冊子状に整理して(綴じて)授業に持参する。		
受講要件(履修条件) / Prerequisites	出席が3分の2に達しない場合は失格とする。やむを得ず欠席した場合は、教養教育事務室で必要な書類を確認し、教員に提出する。メールや電話で連絡する必要はない。 入室の際、I Cカードリーダーで打刻する。打刻を忘れた場合は、入室の際、出席届出用紙に記入し、教員に提出する。		

アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006 （FAX）095-819-2974 （E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考/Remarks	授業は対面形式で実施します。
学生へのメッセージ/Message for students	教養教育は、異学部の人と関わり合える貴重な機会です。授業で理解できない点があったら、クラスメートに声をかけ、助けてもらいましょう。協働する力は、これからの社会が必要とする資質の一つです。
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	ウォームアップ・アクティビティ ハングルについて（対面）
第2回	Task：透視能力はある？ 教育制度について（対面）
第3回	Task：きょうだいはいる？ 名前について（対面）
第4回	Task：相性No. 1はだれ？ 兵役について（対面）
第5回	Task：クラスの実態調査をしよう 女性について（対面）
第6回	Project 1 自分のことを伝えよう（対面）
第7回	スピーキングテスト （対面）
第8回	ポスターセッション
第9回	Task：夏休みにしたいことは？ 大学生活について（対面）
第10回	Task：私は何をしているのかな？ 政治について（対面）
第11回	Task：予定表を作ろう 食文化について（対面）
第12回	Task：私の趣味は・・・ 外国人について（対面）
第13回	Project 2 身近な人を紹介しよう （対面）
第14回	スピーキングテスト （対面）
第15回	ポスターセッション
第16回	定期試験 ペーパーテスト（対面）

学期 / Semester	2025年度 / Academic Year 後期 / Second Semester	曜日・校時 / Day・Period	水 / Wed 3
開講期間 / Course duration	2025/09/29 ~ 2026/03/31		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General /Transfer/Overseas)	1.0/1.0/1.0
時間割コード / Time schedule code	20250547001501	科目番号 / Course code	05470015
科目ナンバリングコード / Numbering code			
授業科目名 / Course title	● 韓国の言語と文化B(言語・異文化理解科目) 1単位科目 / Bridging Language and Culture B (Korean)		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	ユウ キョンミ / Yuu Kiyonmi		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	ユウ キョンミ / Yuu Kiyonmi		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	ユウ キョンミ / Yuu Kiyonmi		
科目分類 / Course Category	言語・異文化理解科目, 人文・社会科学科目		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	演習 / Seminar
教室 / Class room	教養教育A棟14 / RoomA-14		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	全学生		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	you-kiss▲nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は▲を@に置き換えて送信してください)		
担当教員研究室/Office	教養教育B棟1階106番研究室		
担当教員TEL/Tel			
担当教員オフィスアワー/Office hours	月～金12:05頃 その他の時間を希望する場合は、授業開始前もしくは終了後にご相談ください。		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	積極的な学生参加型授業を行います。 韓国語の基本的な4技能(聞く、話す、読む、書く)を身につけ、簡単なコミュニケーションができることを目標とします。 韓国の社会や文化について基本的な知識を身につけ、多様性を理解できることを目標とします。		
授業到達目標/Course goals	1. ハングル文字を読み、書くことができる。 2. 身近なトピックについて、口頭(2分以上)で会話できる。 3. 韓国の社会や文化について、口頭で説明できる。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで) / Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	☐ 汎用的能力 / Generic Competence ☐ 倫理観 / Ethics ☐ 多様性の理解 / Understanding Diversity ■ 主体性 / Autonomy ■ 協働性 / Cooperativeness ☐ 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas ■ 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	☐ A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ■ B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives ■ C. 技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills ☐ D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems ☐ E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above ☐ F. 教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	授業への取り組み方 20% 目標 課題(2点×10回=20点) + Speaking Test (10点×2回=20点) = 40点 56% 目標 ポスターセッション(10点×2回=20点) + 定期試験20点 = 40点 24% 合計100点のうち60点以上を合格とする。ただし、定期試験で0点の場合は不合格とする。また、定期試験に欠席した場合は「欠」、出席が3/2に達しない場合は「失」となり、不合格となる。		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法) / Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	毎回配布されるワークシートにより予習復習を行う(0.5h) 配布プリントを再読し、理解を確実にするように努める。理解できない点は、そのつど図書館やインターネットを用いて調べ、クラスメートや教員に質問し、解決する(0.5h)		
キーワード/Keywords			
教科書・教材・参考書/Materials	『フォーカス フォームで身につくトライ! コリアン』 ゆうきょんみ 朝日出版社 配布プリント 冊子状に整理して(綴じて)授業に持参する。		

受講要件（履修条件）/Prerequisites	本授業は、前期開講科目【韓国の言語と文化A】を受講済みであることを前提に進められます。 そのため、同科目を受講済みの学生が望ましいです。 未受講の場合、授業内容の理解が難しくなる可能性があります。 このことを念頭に受講を決めてください。 出席が3分の2に達しない場合は、失格とする。やむを得ず欠席した場合は、教養教育事務室で必要な書類を確認し、教員に提出する。メールや電話で連絡する必要はない。 入室の際、ＩＣカードリーダーで打刻する。打刻を忘れた場合は、入室の際、出席届出用紙に記入し、教員に提出する。
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006 （FAX）095-819-2974 （E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考/Remarks	授業は対面形式で実施します。
学生へのメッセージ/Message for students	教養教育は、異学部の人と関わり合える貴重な機会です。授業で理解できない点があったら、クラスメートに声をかけ、助けてもらいましょう。協働する力は、これからの社会が必要とする資質の一つです。
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N
実務家教員名／実務経験内容／実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	前期の振り返り ウォーミングアップ・アクティビティ
第2回	Task：夏休みビンゴ 宗教について（対面）
第3回	Task：To see Koalas 外国人について（対面）
第4回	Task：インタビューしよう 在日について（対面）
第5回	Task：週末何をした？ 日韓関係史について（対面）
第6回	Project 3 夏休みの思い出（対面）
第7回	スピーキングテスト （対面）
第8回	ポスターセッション
第9回	Task：新入社員を採用しよう 韓流について（対面）
第10回	Task：役割分担表を作ろう 祭日・儀礼について（対面）
第11回	Task：アンサーゲーム 韓国と北朝鮮について（対面）
第12回	Task：新年の計画は？ 宗教について（対面）
第13回	Project 4 将来の夢（対面）
第14回	スピーキングテスト （対面）
第15回	ポスターセッション
第16回	定期試験 ペーパーテスト（対面）

学期 / Semester	2025年度 / Academic Year 後期 / Second Semester	曜日・校時 / Day・Period	水 / Wed 5
開講期間 / Course duration	2025/09/29 ~ 2026/03/31		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General /Transfer/Overseas)	1.0/1.0/1.0
時間割コード / Time schedule code	20250547001502	科目番号 / Course code	05470015
科目ナンバリングコード / Numbering code			
授業科目名 / Course title	● 韓国の言語と文化B(言語・異文化理解科目) 1単位科目 / Bridging Language and Culture B (Korean)		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	ユウ キョンミ / Yuu Kiyonmi		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	ユウ キョンミ / Yuu Kiyonmi		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	ユウ キョンミ / Yuu Kiyonmi		
科目分類 / Course Category	言語・異文化理解科目, 人文・社会科学科目		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	演習 / Seminar
教室 / Class room	教養教育A棟14 / RoomA-14		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	全学生		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	you-kiss▲nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は▲を@に置き換えて送信してください)		
担当教員研究室/Office	教養教育B棟1階106番研究室		
担当教員TEL/Tel			
担当教員オフィスアワー/Office hours	月～金12:05頃 その他の時間を希望する場合は、授業開始前もしくは終了後にご相談ください。		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	積極的な学生参加型授業を行います。 韓国語の基本的な4技能(聞く、話す、読む、書く)を身につけ、簡単なコミュニケーションができることを目標とします。 韓国の社会や文化について基本的な知識を身につけ、多様性を理解できることを目標とします。		
授業到達目標/Course goals	1. ハングル文字を読み、書くことができる。 2. 身近なトピックについて、口頭(2分以上)で会話できる。 3. 韓国の社会や文化について、口頭で説明できる。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで) / Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	☐ 汎用的能力 / Generic Competence ☐ 倫理観 / Ethics ☐ 多様性の理解 / Understanding Diversity ■ 主体性 / Autonomy ■ 協働性 / Cooperativeness ☐ 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas ■ 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	☐ A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ■ B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives ■ C. 技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills ☐ D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems ☐ E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above ☐ F. 教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	授業への取り組み方 20% 目標 課題(2点×10回=20点) + Speaking Test (10点×2回=20点) = 40点 56% 目標 ポスターセッション(10点×2回=20点) + 定期試験20点 = 40点 24% 合計100点のうち60点以上を合格とする。ただし、定期試験で0点の場合は不合格とする。また、定期試験に欠席した場合は「欠」、出席が3/2に達しない場合は「失」となり、不合格となる。		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法) / Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	毎回配布されるワークシートにより予習復習を行う(0.5h) 配布プリントを再読し、理解を確実にするように努める。理解できない点は、そのつど図書館やインターネットを用いて調べ、クラスメートや教員に質問し、解決する(0.5h)		
キーワード/Keywords			
教科書・教材・参考書/Materials	『フォーカス フォームで身につくトライ! コリアン』 ゆうきょんみ 朝日出版社 配布プリント 冊子状に整理して(綴じて)授業に持参する。		

受講要件（履修条件）/Prerequisites	本授業は、前期開講科目【韓国の言語と文化A】を受講済みであることを前提に進められます。 そのため、同科目を受講済みの学生が望ましいです。 未受講の場合、授業内容の理解が難しくなる可能性があります。 このことを念頭に受講を決めてください。 出席が3分の2に達しない場合は、失格とする。やむを得ず欠席した場合は、教養教育事務室で必要な書類を確認し、教員に提出する。メールや電話で連絡する必要はない。 入室の際、ＩＣカードリーダーで打刻する。打刻を忘れた場合は、入室の際、出席届出用紙に記入し、教員に提出する。
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006 （FAX）095-819-2974 （E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考/Remarks	授業は対面形式で実施します。
学生へのメッセージ/Message for students	教養教育は、異学部の人と関わり合える貴重な機会です。授業で理解できない点があったら、クラスメートに声をかけ、助けてもらいましょう。協働する力は、これからの社会が必要とする資質の一つです。
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	前期の振り返り ウォーミングアップ・アクティビティ
第2回	Task：夏休みビンゴ 宗教について（対面）
第3回	Task：To see Koalas 外国人について（対面）
第4回	Task：インタビューしよう 在日について（対面）
第5回	Task：週末何をした？ 日韓関係史について（対面）
第6回	Project 3 夏休みの思い出（対面）
第7回	スピーキングテスト （対面）
第8回	ポスターセッション
第9回	Task：新入社員を採用しよう 韓流について（対面）
第10回	Task：役割分担表を作ろう 祭日・儀礼について（対面）
第11回	Task：アンサーゲーム 韓国と北朝鮮について（対面）
第12回	Task：新年の計画は？（対面）
第13回	Project 4 将来の夢（対面）
第14回	スピーキングテスト （対面）
第15回	ポスターセッション
第16回	定期試験 ペーパーテスト（対面）

学期 / Semester	2025年度 / Academic Year 2クォーター / Second Quarter	曜日・校時 / Day・Period	水 / Wed 3, 水 / Wed 4
開講期間 / Course duration	2025/06/09 ~ 2025/09/28		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General / Transfer/Overseas)	2.0 / 2.0
時間割コード / Time schedule code	20250547001701	科目番号 / Course code	05470017
科目ナンバリングコード / Numbering code			
授業科目名 / Course title	●インド・フィールドワーク入門(言語・異文化理解科目) / Introduction to Fieldwork in India		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	清田 智子 / KIYOTA Tomoko		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	清田 智子 / KIYOTA Tomoko		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	清田 智子 / KIYOTA Tomoko		
科目分類 / Course Category	言語・異文化理解科目, 人文・社会科学科目		
対象年次 / Intended year	2, 3, 4	講義形態 / Course style	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育A棟22 / RoomA-22		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	インド研修(自己負担:金額未定)に参加可能な者。 選択科目「インド入門」を履修済、履修中の者で、2年次以上であること。 履修には担当教員の事前審査が必要です。審査を受けていない人は履修前に必ず連絡してください。 。		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	tomokokiyota▲nagasaki-u.ac.jp(メールを送信する際は▲を@に置き換えて送信してください)		
担当教員研究室/Office	文教キャンパス教養教育B棟2階		
担当教員TEL/Tel	095-819-2454		
担当教員オフィスアワー/Office hours	質問や相談はいつでも歓迎です。事前にメールでアボを取ってください。		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	本プログラム「インド・フィールドワーク入門」は、「インド入門」を受講した学部生を対象とした教養選択科目として開講され、インドを実際に訪問し、現地学生との交流や文化体験等を通じ、海外でのフィールドワークの方法論を学ぶものである。インドというアジア・アフリカ諸国の中でもとりわけチャレンジングな環境に身を置き、AIには答えが出せない問を実際に現地に行き調査することにより、学生の海外志向、柔軟性、忍耐力、調査力、英語力などを総合的に向上させる狙いがある。 具体的には、日本国内で1カ月にわたるオンライン学修や事前調査を実施した後で、北インド及び南インドにおける研修に移る。本講義を受講する学生は、それぞれの専攻や関心に基づきインドで明らかにしたいリサーチ・クエスチョンを設定し、インドに行く前にそのテーマについて自分で調査し、仮説を立てる。国内の学修では、講義のみならず、長崎県内に住むインド人との交流や、協定校とのオンライン交流を実施し、そのテーマや仮説が現地で調査可能かどうかを確認する。インドでは、協定校での学生交流を通じ、最低3人のインド人にインタビューし、仮説が正しいかどうかを調査する。そして、その調査結果を最後にレポートとしてまとめ、提出した学生に2単位を付与する。 協定校は、安全で清潔な宿舎を有する大学を選定した。北インドではシヴ・ナダル大学(SNU)、南インドはペロア工科大学(VIT)チェンナイ校等である。協定校における研修では、現地教員による特別講義に加え、農村訪問や漁村訪問、インド料理講習などにより、同国の文化や歴史を学ぶ予定である。		
授業到達目標/Course goals	自分で問いを設定し、調査して回答を導き出すことができるようになる。 海外でフィールドワークが出来るようになる。 英語でインタビュー調査が出来るようになる。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで)/Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	☐ 汎用的能力 / Generic Competence ☐ 倫理観 / Ethics ☒ 多様性の理解 / Understanding Diversity ☒ 主体性 / Autonomy ☐ 協働性 / Cooperativeness ☐ 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas ☒ 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	■A.授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動
/ Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ■B.多角的に考えるために他者と関わる活動
/ Activities involving others to think from various perspectives ■C.技能修得のために実践する活動
/ Activities to practice for acquiring skills ■D.問題解決のために知識を総合的に活用する活動
/ Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems ☐E.上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法
/ Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above ☐F.教員からの講義のみで構成される
/ It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	レポート及び報告会での報告内容(100%)		

各回の授業内容・授業方法（学習指導方法）/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	自分が調べたいテーマについて文献やインターネットにより事前調査を行い、現地でインタビュー調査をする準備を行う（４H）
キーワード/Keywords	インド、フィールドワーク、インタビュー調査、海外研修
教科書・教材・参考書/Materials	特に決まった教科書は使いません。参考書については講義で提示します。
受講要件（履修条件）/Prerequisites	インド研修に参加可能な者。 選択科目「インド入門」を履修済、履修中の者で、2年次以上であること。 履修には担当教員の事前審査が必要です。審査を受けていない人は履修前に必ず連絡してください。
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006 （FAX）095-819-2948 （E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考/Remarks	研修費用は未定です。英語力やGPAによって大学の海外留学奨学金の補助（6万円程度）が受けられる可能性があります。 上記シラバスや研修内容は特別講師の都合などにより変更する場合があります。
学生へのメッセージ/Message for students	インドは一人で行くにはなかなかハードルが高い国ですが、インドで生きていけるようになれば、世界のほとんどの国で生きていけるようになると思います。面白い国ですので是非チャレンジしてみてください！
実務経験のある教員による授業科目であるか（Y/N）/Instructor(s) with practical experience	Y
実務家教員名／実務経験内容／実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	本講義を担当する清田は、2017年から2年間、外務省アジア大洋州局地域政策参事官室で外務事務官としてASEANを担当し、2019年から2年間、在タイ日本国大使館で書記官として日タイ関係や日ASEAN関係の促進に関与した。また、在インド日本国大使館では2年間、専門調査員としてインド内政を担当した。インドでは、他にもシンクタンクや私立大学での勤務経験を有する。
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	オリエンテーション 対面 （講義の概要、研修内容）
第2回	インドでのマナーや注意点 対面
第3回	フィールドワークとは / テーマの発掘と事前調査の方法 対面
第4回	仮説の立て方 対面
第5回	現地調査 / インタビュー調査の方法 対面
第6回	オンライン交流会（シヴ・ナガル大学） オンライン
第7回	オンライン交流会（ヴェロア工科大学） オンライン
第8回	テーマの発表 対面
第9回	特別講義@シヴ・ナガル大学 / インドをめぐる国際情勢 対面
第10回	特別講義@シヴ・ナガル大学 / インドの農業問題 対面
第11回	特別講義@在日本国大使館 / 日印関係 対面
第12回	特別講義@ジェトロ・ニューデリー事務所 / インド経済と日本企業のインド進出について 対面
第13回	特別講義@ジャイカ・インド事務所 / インドにおける貧困問題と開発 対面
第14回	特別講義@ヴェロア工科大学 / インド憲法 対面
第15回	特別講義ヴェロア工科大学 / インドの伝統文化、伝統衣装、食文化 対面
第16回	報告会 対面

学期 / Semester	2025年度 / Academic Year 後期 / Second Semester	曜日・校時 / Day・Period	水 / Wed 5
開講期間 / Course duration	2025/09/29 ~ 2026/03/31		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General /Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20250569061401	科目番号 / Course code	05690614
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEOC 12661_002		
授業科目名 / Course title	● オランダの文化(言語・異文化理解科目) / Dutch Culture		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	山下 龍 / Yamashita Noboru		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	山下 龍 / Yamashita Noboru		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	山下 龍 / Yamashita Noboru		
科目分類 / Course Category	言語・異文化理解科目, 総合科学科目, 自由選択科目, 人文・社会科学科目, 総合科学科目, 自由選択科目		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育A棟33 / RoomA-33		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	全学 All Faculties The explanation in class will be given in Japanese only, therefore the syllabus will also only be given in Japanese. If you are a foreign student interested in taking this lecture and you are not sure if your Japanese language ability is sufficient, please contact prof. Yamashita directly by e-mail.		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	noboruy▲nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は▲を@に置き換えて送信してください)		
担当教員研究室/Office	言語教育研究センター B-112		
担当教員TEL/Tel	095-819-2080		
担当教員オフィスアワー/Office hours	授業の前後		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	日本と北ヨーロッパの中心国の一つとして発展してきたオランダとの交流が江戸初期に長崎から始まり、その交流が現在まで400年以上続いています。この講義ではオランダの文化と歴史を中心に、北ヨーロッパの歴史的発展、または、長崎と深い関わりのある日蘭交流について、基本的な知識の修得と文化理解を目的とします。		
授業到達目標/Course goals	オランダ・北ヨーロッパの文化と歴史、または、日蘭交流についての基本的な知識を修得します。 なお、講義の理解度に応じて、課題内容の順番などを変更することがあります。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで)/Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	☐ 汎用的能力 / Generic Competence ■倫理観 / Ethics ■多様性の理解 / Understanding Diversity ☐ 主体性 / Autonomy ☐ 協働性 / Cooperativeness ☐ 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas ■国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	■A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ■B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 Activities involving others to think from various perspectives ☐ C. 技能修得のために実践する活動 Activities to practice for acquiring skills ■D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems ☐ E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above ☐ F. 教員からの講義のみで構成される It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	成績評価の方法・基準等 成績評価は、○定期試験、または、レポート80% 授業中の提出物・課題20%		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法)/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	講義で配布された資料を読み、資料と講義の内容に基づいたレポート課題をしたうえで講義にのぞむこと。 講義の内容を復習する。 2時間事前、2時間事後学習		
キーワード/Keywords	オランダの歴史・オランダの文化・オランダの社会・オランダの教育		
教科書・教材・参考書/Materials	教材 : プリント教材 毎回配布します。		
受講要件(履修条件)/Prerequisites	全回出席が原則		

アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006（FAX）095-819-2948
備考/Remarks	
学生へのメッセージ/Message for students	講義の内容をしっかりと聞き、渡された教材を予習・復習すれば、オランダや西欧の文化と歴史を広く、楽しく理解できるようになります。
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	N
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回 対面	01. オランダの先史時代 02. ローマ時代（紀元前57年-紀元後500年） 03. 北ヨーロッパでのキリスト教の布教 04. カール大帝（756 -814）
第2回 対面	05. ヘッペン・オッラ・フォーゴラ 文語の発展 06. フロリス5世（1254 -1296）とホラント伯（オランダ）の発展 ・ 英仏100年戦争 ・ 黒死病（ペスト） 07. ハンザ同盟の貿易（1356年 - 1450年）
第3回 対面	08. エラスムスと人文主義（1469 -1536） 09. カール5世（1500-1558） ・ ブルゴーニュ公爵領ネーデルランデン ・ カール5世 ハブスブルグ領ネーデルランデン 10. 聖画像・偶像破壊 11a. オラニエ公ウィレム1世（1533-1584） ・ ネーデルランデンの反乱の始まり（80年戦争）（1568-1648）
第4回 対面	11b. オラニエ公ウィレム1世（1533-1584） ・ ネーデルランデンの反乱の始まり（80年戦争）（1568-1648） 12. 7ネーデルランデン共和国時代（1588 -1795） 13. 15・16世紀の美術
第5回 対面	14. オランダ 東インド会社（1602-1799） 15. 平戸と出島 ・ 1609年 平戸オランダ商館創立 ・ 1641年 出島への移動
第6回 対面	16. デ・ベームステル干拓地（1612） 17. アムステルダム運河（1613 -1662） 18. 公定オランダ語訳聖書（1637）
第7回 対面	19b. 黄金時代の芸術（1602 - 1672） 20. アトラス・マイオル大地図帳（1662） 21. 黄金時代の学者たち 22. Zeehelden van de Gouden Eeuw 黄金時代の海の英雄たち
第8回 対面	23. 災厄の年 24. 奴隷制（1637 -1863）
第9回 対面	25. Buitenhuizen in de 17e en 18e Eeuw 17・18世紀の別荘 26. バタビア共和国・バタビア連邦時代（1795 -1806） ・ De Bataafse Republiek バタビア共和国の樹立（1795- 1801） ・ Het Bataafs Gemenebest バタビア連邦の樹立（1801 -1806）

第10回 対面	27. Napoleon Bonaparte en de Nederlanden ナポレオン・ボナパルテとネーデルランデン ・Koninkrijk Holland ホラント王国時代 (1806 - 1810) ・Onderdeel van het Franse Keizersrijk フランス第一帝国時代 (1810 - 1813) 28. ネーデルランデン連合公国 ・ネーデルランデン連合王国時代 (1813-1830/39) ・1813年 Soeverein Vorstendom der Verenigde Nederlanden ネーデルランデン連合公国の誕生 ・1815年 Verenigd Koninkrijk der Nederlanden ネーデルランデン連合王国の樹立 ・1830年 ベルギー独立宣言・独立戦争 ・1839年 ベルギー独立とネーデルランデン王国の誕生 (1830/1839) 29. Het Koninkrijk der Nederlanden ネーデルランデン王国 1839 ~)
第11回 対面	30. マクス・ハフェラル (1860) 31. 児童労働 32. アレッタ・ヤコブスと女性解放 33. フィンセント・ファン・ゴッホ (1853-1890) 34. 第一次世界大戦 (1914-1918)
第12回 対面	35. デ・ステイル 36. 1920-1930年代 (第一次と第二次世界大戦の間の期間) 37a. 第二次世界大戦 オランダ
第13回 対面	37b. 第二次世界大戦 オランダ領東インド 38. オランダ領東インドの独立 (1945 - 1949) 39. 1975年 オランダ領スリナムの独立 40. 旧 オランダ領アンティル諸島 41. 1953年の大洪水とデルタ計画
第14回 対面	現在のオランダの 政治・経済など
第15回 対面	現在のオランダの 養育・福祉・行事・食事など
第16回 対面	期末試験

学期 / Semester	2025年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	水 / Wed 5
開講期間 / Course duration	2025/04/01 ~ 2025/09/28		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General /Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20250569061501	科目番号 / Course code	05690615
科目ナンバリングコード / Numbering code	GE0C 12711_002		
授業科目名 / Course title	● オランダの言語 (言語・異文化理解科目) / Dutch Language		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	山下 龍 / Yamashita Noboru		
授業担当教員名 (科目責任者) / Instructor in charge of the course	山下 龍 / Yamashita Noboru		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Instructor(s)	山下 龍 / Yamashita Noboru		
科目分類 / Course Category	言語・異文化理解科目, 総合科学科目, 自由選択科目, 人文・社会科学科目		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育A棟41 / RoomA-41		
対象学生 (クラス等) / Intended year (class)	全学生 (オランダ・オランダ語に興味を持つ学生) All Faculties The explanation in class will be given in Japanese only, therefore the syllabus will also only be given in Japanese. If you are an interest foreign student and you are not sure if your Japanese language ability is sufficient, please contact prof. Yamashita directly by e-mail. 授業中の説明は日本語のみとなりますので、シラバスも日本語のみとなります。自分の日本語能力		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	noboruy▲nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は▲を@に置き換えて送信してください)		
担当教員研究室/Office	言語教育研究センター B-112		
担当教員TEL/Tel	095-819-2080		
担当教員オフィスアワー/Office hours	講義の前後		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	初級レベルのオランダ語入門講義である。本講義のために作成した資料を活用し、聞く・話す・書く・読むことを通して聴解・読解・文法を学ぶ。会話の中に基本の文法を取り入れ、文法を自然に身に付けることを目指す。習ったオランダ語を、実際に楽しく用いる。また、オランダの人気ある歌を紹介し、オランダの文化も紹介する。		
授業到達目標/Course goals	初級レベルのオランダ語の聴解・読解・文法の知識を身に付ける		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力 (1つ以上3つまで) / Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	☐ 汎用的能力 / Generic Competence ☐ 倫理観 / Ethics ■ 多様性の理解 / Understanding Diversity ☐ 主体性 / Autonomy ☐ 協働性 / Cooperativeness ☐ 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas ■ 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	■ A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ☐ B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives ■ C. 技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills ☐ D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems ☐ E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above ☐ F. 教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	課題 30% 定期試験 70%		
各回の授業内容・授業方法 (学習指導方法) / Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	2時間事前、2時間事後学習		
キーワード/Keywords	オランダ語、オランダ文化		
教科書・教材・参考書/Materials	オランダ語入門 練習問題 (長崎大学・山下 龍)、講義で配布する。		
受講要件 (履修条件) / Prerequisites	全回出席が原則		

アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006 （FAX）095-819-2948 （E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考/Remarks	すべての講義は「対面」で行います。
学生へのメッセージ/Message for students	他の国立大学で勉強ができない言語を挑戦してみましょう！
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	Les 01. Hallo, ik heet Jelle
第2回	Les 02. Wat is uw naam?
第3回	Les 03.Woon je hier al lang?
第4回	Les 04. Aangenaam kennis te maken
第5回	Les 1-4 復習
第6回	Les 05. Mijn familie / Hoe laat is het?
第7回	Les 06. Wat doe je vandaag?
第8回	Les 07. Een week heeft zeven dagen
第9回	Les 08. Afspreken
第10回	Les 1-8 復習
第11回	Les 09. In een restaurant
第12回	Les 10. Spreek je Nederlands?
第13回	Les 11. De weg vragen
第14回	Les 12. Boodschappen
第15回	Les 1-12 復習 模擬テスト
第16回	期末試験

学期 / Semester	2025年度 / Academic Year 1クォーター / First Quarter	曜日・校時 / Day・Period	水 / Wed 5, 水 / Wed 6
開講期間 / Course duration	2025/04/01 ~ 2025/06/08		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General / Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20250588025101	科目番号 / Course code	05880251
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEOC 15991_002		
授業科目名 / Course title	● 海外English Camp (A) (言語・異文化理解科目) / Overseas English Camp (A)		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	廣江 顕 / Akira Hiroe, Kyaw May / May Kyaw		
授業担当教員名 (科目責任者) / Instructor in charge of the course	廣江 顕 / Akira Hiroe		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Instructor(s)	廣江 顕 / Akira Hiroe, Kyaw May / May Kyaw		
科目分類 / Course Category	言語・異文化理解科目, 自由選択科目, グローバル科目		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育A棟11 / RoomA-11		
対象学生 (クラス等) / Intended year (class)	全学生		
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	ahiroe▲nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は▲を@に変更して送信してください)		
担当教員研究室 / Office	環境科学部実験棟1階		
担当教員TEL / Tel	095-819-2378		
担当教員オフィスアワー / Office hours	メールによる要相談		
授業の概要及び位置づけ / Course overview	本授業は、海外 (本年度は台湾あるいは韓国) における本学の協定校を訪問し、英語で協定校の学生に本学のプレゼンと、指定されたトピックでディスカッションを行う。また協定校の学生と本学の教員を交えて、英語での交流活動を行う。さらに、現地の視察も行い、英語による異文化間コミュニケーションの実験を体験する。* なお、派遣が難しい場合は、オンライン形式での実施とする。		
授業到達目標 / Course goals	英語で日本・長崎 (の歴史・地理・文化) 及び長崎大学を紹介することができるようになる。また指定されたトピックについて入念な下調べを行い、英語でプレゼンテーションができるようになる。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力 (1つ以上3つまで) / Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	☐ 汎用的能力 / Generic Competence ☐ 倫理観 / Ethics ■ 多様性の理解 / Understanding Diversity ☐ 主体性 / Autonomy ☐ 協働性 / Cooperativeness ■ 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas ■ 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法 / Teaching method to stimulate students' thinking	■ A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ■ B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives ☐ C. 技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills ■ D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems ☐ E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above ☐ F. 教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等 / Method of evaluation	(1) プレゼンテーション用のスクリプト・パワーポイント資料の提出 (時間厳守) (50%) (2) (1)のZoomでの指導への取り組み (何度も各自で練習しているかどうか) (30%) (3) 交流会及び派遣先での取り組み (20%) (4) 事務的書類の提出状況 (厳守)		
各回の授業内容・授業方法 (学習指導方法) / Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学修の内容 / Preparation & Review	事前学習として教材の予習及び課題に2時間、事後学習として課題の見直し及びプレゼンの練習に2時間		
キーワード / Keywords	understanding different cultures, discussion, possible relationships		
教科書・教材・参考書 / Materials	授業時に指示する		
受講要件 (履修条件) / Prerequisites			

アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006 （FAX）095-819-2948 （E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考/Remarks	長崎大学より奨学金相当額が本授業を受講する学生には支給される。 本授業は、原則、対面で行う。なお、オンライン形式（Zoomを使用）で行う場合は、事前にメールで配信する。
学生へのメッセージ/Message for students	この授業を利用して、アジアの学術交流締結校と学生交流を積極的に行って下さい。教養教育英語科目で培ったスキルをこの授業で技能統合できるよう取り組んで下さい。
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	Y
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	廣江 顕/高等学校英語教員としての実務経験/高等学校英語教員としての実務経験を踏まえ、高等学校の現場での英語科目の授業構成、指導法等々の変遷や『学習指導要領』の解説を行なっている。/ 佐賀県立致遠館高等学校、佐賀県立唐津東高等学校
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	オリエンテーション (1)成均館大学校への派遣目的の説明 (2)「大学紹介」セッション、「トピック・プレゼンテーション」セッション、それぞれでの担当学生の選抜 (3)現地日程の説明
第2回	第1回オンライン交流会に向けての準備 (1)「大学紹介」プレゼンターの準備 (2)「自己紹介」セッションの準備
第3回	プレゼンテーションの予行演習(1) (1)プレゼンターのリハーサル (2)教員によるコメント
第4回	プレゼンテーションの予行演習(2) (1)プレゼンターのリハーサル (2)教員によるコメント
第5回	第一回オンライン交流会 (1)「大学紹介」セッション Zoomを用いて行い、プレゼンは原則メインセッションで行う。 (2)「自己紹介」セッション ブレイクアウトルームに分けて行い、15分のセッションを2回行う。
第6回	第2回オンライン交流会に向けての準備(1) (1)トピックプレゼンの準備 (2)教員の指導
第7回	第2回オンライン交流会に向けての準備(2) (1)トピックプレゼンターのスクリプト及びパワーポイント資料の準備 (2)教員による指導
第8回	第2回オンライン交流会に向けての準備(3) (1)リハーサル (2)教員による指導
第9回	第2回オンライン交流会 (1)「トピック・プレゼンテーション」セッション *トピックは3つ。ひとつのトピックにつき、2名ずつ担当する。 (2)「トピック・プレゼンテーション」に内容にもとづき、Zoomのブレイクアウトルームでディスカッションを行う。なお、プレゼンターは、ブレイクアウトルームではファシリテーターとして協議を進行する。
第10回	現地交流会での準備(1) (1)前回プレゼン・質疑応答の反省 (2)トピック・セレクション

第11回	現地交流会での準備(2) (1) プレゼン準備 (2) 謝辞 (2名)の準備
第12回	現地交流会での準備(3) (1) プレゼン・リハーサル (2) 謝辞リハーサル
第13回	現地交流会での準備(4) (1) プレゼン・リハーサル (2) 謝辞リハーサル
第14回	現地交流会での準備(5) (1) 最終プレゼンリハーサル (2) 最終謝辞リハーサル
第15回	渡航準備 (1) 三喜ICICによる渡航オリエンテーション (2) 最終確認

学期 / Semester	2025年度 / Academic Year 3クォーター / Third Quarter	曜日・校時 / Day・Period	水 / Wed 5, 水 / Wed 6
開講期間 / Course duration	2025/09/29 ~ 2025/11/26		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General / Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20250588025201	科目番号 / Course code	05880252
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEOC 16001_002		
授業科目名 / Course title	●海外English Camp (B) (言語・異文化理解科目) / Overseas English Camp (B)		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	廣江 顕 / Akira Hiroe, Kyaw May / May Kyaw, MACPHERSON JEFFERY JOHN		
授業担当教員名 (科目責任者) / Instructor in charge of the course	廣江 顕 / Akira Hiroe		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Instructor(s)	廣江 顕 / Akira Hiroe, Kyaw May / May Kyaw, MACPHERSON JEFFERY JOHN		
科目分類 / Course Category	言語・異文化理解科目, 自由選択科目, グローバル科目		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育A棟11 / RoomA-11		
対象学生 (クラス等) / Intended year (class)	全学生		
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	ahiroe▲nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は▲を@に変更して送信してください)		
担当教員研究室 / Office	環境科学部実験棟1階		
担当教員TEL / Tel	095-819-2378		
担当教員オフィスアワー / Office hours	メールによる要相談		
授業の概要及び位置づけ / Course overview	本授業は、海外 (本年度は台湾あるいは韓国) における本学の協定校を訪問し、英語で協定校の学生に本学のプレゼンと、指定されたトピックでディスカッションを行う。また協定校の学生と本学の教員を交えて、英語での交流活動を行う。さらに、現地の視察も行い、英語による異文化間コミュニケーションの実験を体験する。* なお、派遣が難しい場合は、オンライン形式での実施とする。		
授業到達目標 / Course goals	英語で日本・長崎 (の歴史・地理・文化) 及び長崎大学を紹介することができるようになる。また指定されたトピックについて入念な下調べを行い、英語でプレゼンテーションができるようになる。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力 (1つ以上3つまで) / Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	☐ 汎用的能力 / Generic Competence ☐ 倫理観 / Ethics ■ 多様性の理解 / Understanding Diversity ☐ 主体性 / Autonomy ☐ 協働性 / Cooperativeness ■ 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas ■ 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法 / Teaching method to stimulate students' thinking	■ A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ■ B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives ☐ C. 技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills ■ D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems ☐ E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above ☐ F. 教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等 / Method of evaluation	(1) プレゼンテーション用のパワーポイント資料及びスクリプトの提出 (時間厳守) (50%) (2) (1)のZoomでの指導への取り組み (指導を受ける前に何度も練習しているかどうか) (30%) (3) 交流会及び現地での取り組み (20%)		
各回の授業内容・授業方法 (学習指導方法) / Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学修の内容 / Preparation & Review	共同授業でのパフォーマンスを踏まえ、英語運用力の増進のために事前学習を2時間、事後学習を2時間、それぞれ行うこと。また、プレゼンターは、Zoom等での個別指導を行う。		
キーワード / Keywords	understanding different cultures, discussion, possible relationships		
教科書・教材・参考書 / Materials	授業時に指示する		
受講要件 (履修条件) / Prerequisites			

アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006 （FAX）095-819-2948 （E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考/Remarks	長崎大学より奨学金相当額が本授業を受講する学生には支給される。 本授業は、原則、対面で行う。なお、オンライン形式（Zoomを使用）で行う場合は、事前にメールで配信する。
学生へのメッセージ/Message for students	この授業を利用して、アジアの学術交流締結校と学生交流を積極的に行って下さい。教養教育英語科目で培ったスキルをこの授業で技能統合できるよう取り組んで下さい。
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	Y
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	廣江 顕/高等学校英語教員としての実務経験/高等学校英語教員としての実務経験を踏まえ、高等学校の現場での英語科目の授業構成、指導法等々の変遷や『学習指導要領』の解説を行なっている。/ 佐賀県立致遠館高等学校、佐賀県立唐津東高等学校
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	オリエンテーション (1) 派遣目的の説明・現地日程の説明 (2) 「大学紹介」セッション及び指定トピックセッションでのプレゼンターの選抜 (3) グループづくり及びプレゼントピックの決定
第2回	第1回オンライン交流会のための準備 (1) 「大学紹介」担当班のスク립ト及びパワーポイント資料の準備 (2) 「自己紹介」セッションの準備
第3回	第1回オンライン交流会の予行演習 (1) 「大学紹介」プレゼンターのリハーサル (2) 教員によるコメント
第4回	第1回オンライン交流会 (1) 大学紹介プレゼン（両大学それぞれ15分ずつ） (2) 自己紹介セッション Zoomを用いて行い、「自己紹介」セッションは2回異なるグループとあたるようにまわします。
第5回	第2回オンライン交流会の準備 (1) トピックの調査・発表 (2) 教員からのコメント
第6回	第2回オンライン交流会の準備 (1) スクリプトの準備・完成 (2) パワーポイント資料等の準備 (3) 教員からのコメント
第7回	第2回オンライン交流会のための予行演習 (1) トピック別のプレゼンテーションのリハーサル (2) 教員からのコメント
第8回	第2回オンライン交流会のための予行演習 (1) トピック別のプレゼンテーションのリハーサル (2) 教員からのコメント
第9回	第2回オンライン交流会のための予行演習 (1) 質疑応答練習 (2) 教員からのコメント
第10回	第2回オンライン交流会 (1) トピック・プレゼンターによるプレゼン（メインセッションでの質疑応答含む） (2) ブレイクアウトルームでのディスカッション * プレゼンターは、ブレイクアウトルームではファシリテータとして協議を仕切る。
第11回	現地交流会の準備 (1) トピックのための調査 (2) 教員からのコメント

第12回	現地交流会の準備 (1) スクリプトの準備・完成 (2) パワーポイント資料等の準備 (3) 教員からのコメント
第13回	現地交流会の準備 (1) トピック別のプレゼンテーションのリハーサル (2) 教員からのコメント
第14回	現地交流会の準備 (1) 質疑応答練習 (2) 教員からのコメント
第15回	渡航オリエンテーション (1) 三喜ICICからの説明会（オンライン） (2) 提出物等の確認 * 学生は、PCを持参のこと。

学期 / Semester	2025年度 / Academic Year 2クォーター / Second Quarter	曜日・校時 / Day・Period	水 / Wed 3, 水 / Wed 4
開講期間 / Course duration	2025/06/09 ~ 2025/09/28		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General /Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20250594001701	科目番号 / Course code	05940017
科目ナンバリングコード / Numbering code			
授業科目名 / Course title	●異文化理解の実際(言語・異文化理解科目) / Understanding of Different Cultures		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	廣江 顕 / Akira Hiroe, 大橋 絵理 / Oohashi Eri, Collins William / William Collins, 楊 曉安 / Yang Xiaolan, 隈上 麻衣 / Kumagami Mai, Kyaw May / May Kyaw, 作元 裕也, 西原 俊明 / Nishihara Toshiaki		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	廣江 顕 / Akira Hiroe		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	廣江 顕 / Akira Hiroe, 大橋 絵理 / Oohashi Eri, Collins William / William Collins, 楊 曉安 / Yang Xiaolan, 隈上 麻衣 / Kumagami Mai, Kyaw May / May Kyaw, 作元 裕也, 西原 俊明 / Nishihara Toshiaki		
科目分類 / Course Category	言語・異文化理解科目, 人文・社会科学科目		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育A棟31 / RoomA-31		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	全学年		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	ahiroe▲nagasaki-u.ac.jp (廣江) eohashi▲nagasaki-u.ac.jp (大橋) t-nishi▲nagasaki-u.ac.jp (西原) xiaoan▲nagasaki-u.ac.jp (楊) william▲nagasaki-u.ac.jp (コリンズ) maykyaw@nagasaki-u.ac.jp (メイ) (メールを送信する際は▲を@に変更して送信してください)		
担当教員研究室/Office	環境科学部棟1階		
担当教員TEL/Tel	(095)819-2378 (廣江)		
担当教員オフィスアワー/Office hours	各教員へメールにて連絡をし、アポイントをとること。		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	この授業では、まず、英語、中国語、フランス語という言語を起点にし、日英中仏の言語文化の共通点、相違点を比較検討する。さらに、異文化理解をするうえで、「衣」「食」等の身近な話題から、海外の文化や風習など様々な話題を考察することができる。最後に年々増加している国際結婚を通して、それぞれの国の社会、宗教、政治、法律の相違を調査し、他者的な視点で自己の理解を相対化し、相互理解を深める。文化という言葉の起源を探り、コミュニケーションや文脈という観点から共生思想を熟考することをねらいとする。		
授業到達目標/Course goals	アクティブラーニングを取り入れた授業方法を取り、以下の4点を到達目標とする。 1) 学生自身が、自主的に学習目標を立ち上げ探究する力をつける。 2) 適切な学習計画を実行し、仲間と議論、熟考し、それを発表することを通し多様性を理解する能力を身につける。 3) 学習成果を相互的に評価し、相互啓発志向を高めることを目標とする。 4) 以上の3点を通して相互の信頼、尊敬及び扶助、表現の自由、他者の意見の受容を獲得する。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで) / Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	□汎用的能力 / Generic Competence □倫理観 / Ethics ■多様性の理解 / Understanding Diversity □主体性 / Autonomy □協働性 / Cooperativeness ■考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas ■国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法 / Teaching method to stimulate students' thinking	■A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ■B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives □C. 技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills □D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems □E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above □F. 教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等 / Method of evaluation	廣江(9%), 西原(13%), 作元(13%), 大橋(13%), 楊(13%), May(13%), Collins(13%), 隈上(13%)		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法) / Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		

事前、事後学修の内容/Preparation & Review	事前学習として課題及び授業トピックについての下調べ2時間、事後学習として関連文献等のチェック2時間	
キーワード/Keywords	異文化理解、語、文化、共生思想、	
教科書・教材・参考書/Materials	特定の教科書は採用しない。	
受講要件（履修条件）/Prerequisites	各人が 1)プレゼンテーションをする 2)ディベートに参加する 3)レポートを書く 4)授業外学習に週平均2時間程度を充てること、 参考資料をきちんと読むこと。	
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006（FAX）095-819-2948 （E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp	
備考/Remarks	本授業は、原則、対面で行う。なお、オンライン形式（Zoomを使用）で行う場合は、事前にメールで配信する。	
学生へのメッセージ/Message for students		
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	Y	
実務家教員名／実務経験内容／実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	廣江 顕/高等学校英語教員としての実務経験/高等学校英語教員としての実務経験を踏まえ、高等学校の現場での英語科目の授業構成、指導法等々の変遷や『学習指導要領』の解説を行なっている。/ 佐賀県立致遠館高等学校 佐賀県立唐津東高等学校	
授業計画詳細 / Course Schedule		
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents	授業手法 /
第1回	担当教員：廣江 (1)異文化理解の構成要素（「ステレオタイプ論」） (2)外国人留学生によるトーク	A B
第2回	担当教員：西原 英語の見立てと日本の見立て-表現・文法形式を中心に-	A B
第3回	担当教員：西原 Socio-pragmatic failure、The 6-D model of national cutlure by Hofsted	A B
第4回	担当教員：作元 日・英比較1：言語学的視点を中心に	A B
第5回	担当教員：作元 日・英比較2：言語学的視点を中心に	A B
第6回	担当教員：大橋 日本とフランスにおける結婚観の歴史と相違	A B
第7回	担当教員：大橋 グループワーク：世界の国々の結婚観を調査・発表	A B
第8回	担当教員：楊 日本語と中国語 (語族・言語類型・両言語の方言・両言語の音声系統・両言語の文字・両言語の語彙・両言語の文法)	A B
第9回	担当教員：楊 同音・語順と中国文化 (諧音による置換と縁起かつぎ・中国語の語順と中国文化)	A B
第10回	担当教員：May Kyaw Oo: Cultural Identity and Communication - Focus: Explore how personal cultural identities shape our communication styles and perceptions.	A B

第11回	担当教員：May Kyaw Oo: Navigating Cross-Cultural Miscommunication and Stereotypes - Focus: Address common pitfalls in intercultural interactions and explore strategies for overcoming stereotypes and	A B
第12回	担当教員：Collins "What is culture?" Group Brainstorming/Discussion Introduce World Values Survey/Presentation Topics	A B
第13回	担当教員：Collins Small-Group Presentations/ Hofstede Review/Pair Questionnaire Activity	A B
第14回	担当教員：隈上 第二言語習得1「言語(習得)を科学する：英語習得の何が難しいのか？」 ●第二言語習得研究概論：第二言語としての英語習得研究の目的と歴史を概観する。 ●長崎における英語習得：長崎における英語学習環境をもとに、日本人による英語習得に関して何が難しいのか、理想的な学習環境とはいかなるものかなどディスカッションする。	A B
第15回	担当教員：隈上 第二言語習得2「多言語社会、多言語話者とは？：多言語で生活することのメリット・デメリット」 ●バイリンガリズム：ニューヨークの子どもの例をもとに、一言語環境と多言語環境の違いを理解する。 ●長崎におけるバイリンガル環境：留学生の例など長崎における多言語環境をいくつか紹介し、多言語を使いこなすことの利点や異文化における言語能力の重要性についてディスカッションする。	A B

学期 / Semester	2025年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	水 / Wed 5
開講期間 / Course duration	2025/04/01 ~ 2025/09/28		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General /Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20250594009501	科目番号 / Course code	05940095
科目ナンバリングコード / Numbering code			
授業科目名 / Course title	●インド入門(言語・異文化理解科目) / Introductory Course for India Studies		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	清田 智子 / KIYOTA Tomoko		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	清田 智子 / KIYOTA Tomoko		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	清田 智子 / KIYOTA Tomoko		
科目分類 / Course Category	言語・異文化理解科目, 人文・社会科学科目		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育A棟22 / RoomA-22		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	全学生		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	tomokokiyota▲nagasaki-u.ac.jp(メールを送信する際は▲を@に置き換えて送信してください)		
担当教員研究室/Office	文教キャンパス教養教育B棟2階		
担当教員TEL/Tel	095-819-2454		
担当教員オフィスアワー/Office hours	質問や相談はいつでも歓迎です。事前にメールでアポを取ってください。		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	本講義では、世界的な大国の仲間入りを果たしたインドを取り上げ、国力(パワー)の源泉は何か考察する。そして、今後インドは国際社会でどのように振舞うのか、それは日本や東アジアにどのような影響を及ぼすのか議論する。		
授業到達目標/Course goals	- 国際政治学における国家の国力の考え方を理解できるようになる。() - インドの大国化が国際政治や日本の外交・安全保障に与える影響を考察できるようになる。() - 本講義を通じて、インドのみならず他国や他地域を理解するための様々な論点を学び、批判的に検討できるようになる。()		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで) / Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	■汎用的能力 / Generic Competence □倫理観 / Ethics ■多様性の理解 / Understanding Diversity □主体性 / Autonomy □協働性 / Cooperativeness □考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas ■国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	□A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over □B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives □C. 技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills □D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems □E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above ■F. 教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	出席(50%)、最終試験もしくはレポート(50%)で、60点以上を合格とする。		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法) / Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	【予習】講義時に説明する次回のテーマについて事前に予習しておくこと(2h) 【復習】講義内容を基にそのテーマについてもう少し自分で掘り下げてみること(2h)		
キーワード/Keywords	インド、国際政治、外交、安全保障、地域研究、民主主義、移民、日印関係、経済、貧困		
教科書・教材・参考書/Materials	特に決まった教科書は使いません。参考書については講義で提示します。		
受講要件(履修条件) / Prerequisites	インドに少しでも関心があれば大歓迎。		
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下さい。 アシスト広場(障がい学生支援室)連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@m1.nagasaki-u.ac.jp		

備考/Remarks	本講義は全て対面で実施します。シラバスの内容は予告なく変更することがあります。
学生へのメッセージ/Message for students	インドには5年住みました。とても面白い国なので多くの人にインドについて知ってもらいたいです。
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	Y
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づく教育内容 (実務経験のある教員による授業科目のみ使用) /Name / Details of practical experience / Contents of course	本講義を担当する清田は、2017年から2年間、外務省アジア大洋州局地域政策参事官室で外務事務官としてASEANを担当し、2019年から2年間、在タイ日本国大使館で書記官として日タイ関係や日ASEAN関係の促進に関与した。また、在インド日本国大使館では2年間、専門調査員としてインド内政を担当した。インドでは、他にもシンクタンクや私立大学での勤務経験を有する。
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	イントロダクション： 世界が注目するインドのパワー 対面
第2回	独立後インドが抱えてきたハンディキャップ (植民地下での搾取、印バ分離独立、計画経済等) 対面
第3回	人口の多さや多様性は国力の源泉か、それとも重荷か (世界最大の国勢調査、宗教・カースト分布、言語) 対面
第4回	貧困からの脱却と経済大国への歩み (計画経済、経済破綻、経済改革、しかしまだ残る貧困層) 対面
第5回	連邦政府と州政府の攻防 (大統領と首相の役割、議会での議論、連邦政府と州政府の役割分担) 対面
第6回	世界最大の民主主義国の強みと弱み (連邦総選挙、州議会選挙、選挙の仕組みや主要政党の紹介) 対面
第7回	軍事大国化するインド (軍勢力とは何か、政軍関係、中パとの国境紛争、兵器調達の問題点) 対面
第8回	インド外交における戦略的自立 (非同盟政策、印ソ(半)同盟、印米関係、アマノジャク外交) 対面
第9回	インドのエリート達：日本以上の競争・縁故社会 (官僚の能力や権限、流出する頭脳) 対面
第10回	世界に分布するインド移民のパワー 対面
第11回	インドのソフトパワー：ヨガやボリウッドは国力となりえるか？ 対面
第12回	インド映画の視聴(未定) 対面
第13回	世界と南アジアにおけるインドと中国の競合 対面
第14回	日印関係の行く末：日本人はインドを理解できるか？ 対面
第15回	まとめ / 試験の場合はここで試験を実施 対面

学期 / Semester	2025年度 / Academic Year 後期 / Second Semester	曜日・校時 / Day・Period	水 / Wed 5
開講期間 / Course duration	2025/09/29 ~ 2026/03/31		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General / Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20250594009502	科目番号 / Course code	05940095
科目ナンバリングコード / Numbering code			
授業科目名 / Course title	●インド入門(言語・異文化理解科目) / Introductory Course for India Studies		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	清田 智子 / KIYOTA Tomoko		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	清田 智子 / KIYOTA Tomoko		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	清田 智子 / KIYOTA Tomoko		
科目分類 / Course Category	言語・異文化理解科目, 人文・社会科学科目		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育B棟34 / RoomB-34		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	全学生		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	tomokokiyoata▲nagasaki-u.ac.jp(メールを送信する際は▲を@に置き換えて送信してください)		
担当教員研究室/Office	文教キャンパス教養教育B棟2階		
担当教員TEL/Tel	095-819-2454		
担当教員オフィスアワー/Office hours	質問や相談はいつでも歓迎です。事前にメールでアポを取ってください。		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	本講義では、世界的な大国の仲間入りを果たしたインドを取り上げ、国力(パワー)の源泉は何か考察する。そして、今後インドは国際社会でどのように振舞うのか、それは日本や東アジアにどのような影響を及ぼすのか議論する。		
授業到達目標/Course goals	- 国際政治学における国家の国力の考え方を理解できるようになる。() - インドの大国化が国際政治や日本の外交・安全保障に与える影響を考察できるようになる。() - 本講義を通じて、インドのみならず他国や他地域を理解するための様々な論点を学び、批判的に検討できるようになる。()		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで) / Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	■汎用的能力 / Generic Competence □倫理観 / Ethics ■多様性の理解 / Understanding Diversity □主体性 / Autonomy □協働性 / Cooperativeness □考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas ■国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	□A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over □B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives □C. 技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills □D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems □E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above ■F. 教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	出席(50%)、最終試験(50%)で、60点以上を合格とする。		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法) / Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	【予習】講義時に説明する次のテーマについて事前に予習しておくこと(2h) 【復習】講義内容を基にそのテーマについてもう少し自分で掘り下げてみる(2h)		
キーワード/Keywords	インド、国際政治、外交、安全保障、地域研究、民主主義、移民、日印関係、経済、貧困		
教科書・教材・参考書/Materials	特に決まった教科書は使いません。参考書については講義で提示します。		
受講要件(履修条件) / Prerequisites	インドに少しでも関心があれば大歓迎。		
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下さい。 アシスト広場(障がい学生支援室)連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@m1.nagasaki-u.ac.jp		

備考/Remarks	本講義は全て対面で実施します。シラバスの内容は予告なく変更することがあります。
学生へのメッセージ/Message for students	インドには5年住みました。とても面白い国なので多くの人にインドを知ってもらいたいです。
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	Y
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づく教育内容 (実務経験のある教員による授業科目のみ使用) / Name / Details of practical experience / Contents of course	本講義を担当する清田は、2017年から2年間、外務省アジア大洋州局地域政策参事官室で外務事務官としてASEANを担当し、2019年から2年間、在タイ日本国大使館で書記官として日タイ関係や日ASEAN関係の促進に關与した。また、在インド日本国大使館では2年間、専門調査員としてインド内政を担当した。インドでは、他にもシンクタンクや私立大学での勤務経験を有する。
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	イントロダクション： 世界が注目するインドのパワー 対面
第2回	独立後インドが抱えてきたハンディキャップ (植民地下での搾取、印パ分離独立、計画経済等) 対面
第3回	人口の多さや多様性は国力の源泉か、それとも重荷か (世界最大の国勢調査、宗教・カースト分布、言語) 対面
第4回	貧困からの脱却と経済大国への歩み (計画経済、経済破綻、経済改革、しかしまだ残る貧困層) 対面
第5回	連邦政府と州政府の攻防 (大統領と首相の役割、議会での議論、連邦政府と州政府の役割分担) 対面
第6回	世界最大の民主主義国の強みと弱み (連邦総選挙、州議会選挙、選挙の仕組みや主要政党の紹介) 対面
第7回	軍事大国化するインド (軍勢力とは何か、政軍関係、中パとの国境紛争、兵器調達の問題点) 対面
第8回	インド外交における戦略的自立 (非同盟政策、印ソ(半)同盟、印米関係、アマンジャク外交) 対面
第9回	インドのエリート達：日本以上の競争・縁故社会 (官僚の能力や権限、流出する頭脳) 対面
第10回	世界に分布するインド移民のパワー 対面
第11回	インドのソフトパワー：ヨガやボリウッドは国力となりえるか？ 対面
第12回	インド映画の視聴(未定) 対面
第13回	世界と南アジアにおけるインドと中国の競合 対面
第14回	日印関係の行く末：日本人はインドを理解できるか？ 対面
第15回	まとめ / 試験の場合はここで試験を実施 対面
第16回	試験予備日 対面